

令和3年第3回定例会

美郷町議会会議録(第2号)

令和3年9月6日

美郷町議会

# 令和3年第3回美郷町議会定例会会議録（第2日）

令和3年9月6日（月曜日）

◎開会日時 令和3年9月6日 午前10時00分 開会  
◎散会日時 令和3年9月6日 午後14時57分 散会

## ◎出席議員（10名）

1番	山本 文男君	2番	中嶋奈良雄君
3番	川村 義幸君	4番	川村 嘉彦
5番	黒田 仁志君	7番	甲斐 秀徳君
8番	森田 久寛君	9番	園田 義彦君
10番	山田恭一郎君	11番	那須 富重君

◎欠席議員 なし

◎欠 員 6番 富井 裕瑞君

◎会議録署名議員 2番 中嶋奈良雄君 3番 川村 義幸君

◎事務局職員氏名 事務局長 小田 広美君 書記 森川 晴君

## ◎説明のための出席者職氏名

町長	田中 秀俊君	副町長	藤本 茂君
教育長	大坪 隆昭君	会計管理者	三桝 治君
総務課長	下田 光君	税務課長	甲斐 武彦君
企画情報課長	田常 浩二君	町民生活課長	田村 靖 君
健康福祉課長	黒田 和幸君	建設課長	林田 貴美生君
農林振興課長	松下 文治君	政策推進室長	沖田 修一君
教育課長	石田 隆二君	地域包括医療局事務長	黒木 博文
君			
南郷地域課長	川野 一郎君	北郷地域課長	泉田 浩文君

◎会議の経過 別紙のとおり

# 令和 3 年 第 3 回 美 郷 町 議 会 定 例 会

## 議 事 日 程 ( 第 2 )

令 和 3 年 9 月 6 日  
午 前 1 0 時 開 議

### 日 程 第 1 一 般 質 問

#### 9 番 園 田 義 彦 議 員

1. 町 の 医 療 体 制 に つ い て
2. 町 内 の 遊 具 施 設 整 備 に つ い て
3. 新 型 コ ロ ナ 感 染 状 況 等 に つ い て

#### 7 番 甲 斐 秀 徳 議 員

1. 美 郷 産 米 に つ い て
2. 観 光 へ の 取 り 組 み に つ い て

#### 5 番 黒 田 仁 志 議 員

1. COVID19 の 状 況 と 今 後 の 対 策 及 び ワ ク チ ン  
接 種 に つ い て
2. 1 0 年 後 の 美 郷 町 に つ い て

# 会 議 録

令和3年9月6日  
午前10時開議

## 【議長 那須 富重】

おはようございます。

本日の新型コロナウイルスの感染者の発表がありましたけれども、本日は23名と大変、減ってきております。大変いいことなんですけれども、これが収束に向かうものか第6波に向けての底辺なのかということで、大変、心配もあります。引き続き、皆さんの感染予防対策をお願いしたいと思います。

また、政界におきましては、菅首相の退陣表明よりまして、政界のほうも衆院選挙と併せまして大変、混沌としてきております。私たちとしてもしっかり見守っていきたいと思います。

本日は一般質問でありますけれども、傍聴の方もお見えでございます。私たちの議会活動を直接、見ていただきますことは大変、ありがたいことです。傍聴の皆さんに対しまして、敬意と感謝の意を表したいと思います。

## 【議長 那須 富重】

ただいまの出席議員は10名であります。

## 【議長 那須 富重】

これから本日の会議を開きます。

本日の議事日程はお手元に配付の議事日程表のとおりであります。

上着を脱ぎたい方は、脱ぐことを許します。

広報用の写真撮影の申出がありましたので、これを許可しました。

## 【議長 那須 富重】

日程第1、一般質問。

今回、一般質問の通告のありました議員は7名であります。本日は3名の質問を行い、残り4名の質問は明日、行う予定にしております。

通告順に一般質問を行います。

9番、園田 義彦雄議員の登壇を許し、1問目の発言を許可します。

## 【9番 園田 義彦】

議長。

## 【議長 那須 富重】

9番、園田 義彦議員。

## 【9番 園田 義彦】

それでは、通告に基づきまして質問を始めさせていただきます。

今回は、3件の事柄に対して、町長の答弁を求めたいと思いますが、コロナ禍状況などを踏まえ、要点を絞って行いたいと思います。

まず、町の医師確保に関しての件であります。以前、南郷診療所に勤務されておられた先生の退職で定着医師が1名減となっております。あとを派遣医師の先生方で診療いただいている状況であります。やはり何とか定着医師の確保で安定した医療を行うことが重要であると思っております。

これまで何度か質問を行った経緯もありますが、その後、定着医師確保に向けた進捗状況はどのようになっているのか、答弁を求めたいと思います。

以上です。

【議長 那須 富重】

町長の答弁を許します。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

おはようございます。

今日と明日二日間、一般質問ということで7名の議員さんたちから質問を受けております。誠意に対処していこうと思っております。

議長が言われましたように、いろいろと国のほうも難しいというかそういう形になっておりましたが、オリンピック・パラリンピックも閉幕して何となく一安心というか、よかったかなあというふうに思っておるところであります。

ちょうど1年前ですけど、台風10号が来まして、一日延ばさせていただきました。その中において、ちょうど下福良の災害が発生したという時期でもあります。

今後どういう形になるか分かりませんが、常在危機意識を持ってしっかりと対応していきたい、そういうふうに思うところでございます。

それでは、議員の医師確保についてということで御質問をいただきました。

美郷町の医師につきましては、令和3年9月1日現在、定着医師1名、県派遣医師5名であります。それぞれ西郷病院、南郷診療所、北郷診療所の診療を行っていることは御案内のとおりでございます。

特に今年度は、通常の診療に加えて新型コロナ対策やワクチン接種など、県派遣医師については、多忙を極めていただいているところであります。

医師確保についてであります。まず定着医師につきましては、美郷町出身の医師が数名おられますが、医師情報などを収集しているところであります。

また、医師人材紹介サービスを行っている業者が全国に50社ほどありますが、その中で、厚生労働省から認定を受けている1社と連携を図りながら、医師確保に向けての取組を実施をしております。

県派遣医師につきましては、令和2年度からの美郷町の新しい医療供給体制を評価いただき、その充実のため、現在5名の派遣をいただいておりますが、それを継続していただくため、7月21日に県福祉保健部長への陳情を議員さん3名と行ってきたところであります。

また、今月の21日になりますけど、県立宮崎病院の元医師の先生とアポを取りまして、ちょっとそういう話をしたいと、そういうふうに進めていきたいとい

うふうに思うところであります。執行部、こちらもしっかりと医師確保のために動いていきますが、議員さんのほうでもいろいろな情報がございましたら、逐次、こちらのほうに情報を提供していただきたいと、そういうふうに思うところでございます。

以上です。

【議長 那須 富重】

町長の答弁が終わりました。

【9番 園田 義彦】

議長。

【議長 那須 富重】

9番、園田 義彦議員。

【9番 園田 義彦】

町長は、以前の私の質問への答弁で、「何としても定着医の確保に努力していく。できれば令和3年度中の確保を目指したい」という答弁をされました。

その思いにぶれはないと思われませんが、その答弁をお願いします。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

やはり定着医が1名減になったと。厳密に言えば2名減なんですけど、総院長からすれば。1名は確保したいという動きの中で、やはり窓口というかいろいろな形のアンテナを張っておかなければ、どうしてもそういう情報が入ってこないということでもありますので、今回、厚生労働省から認可を受けているマイナビというポータルサイト、結局、医師派遣の会社さんがあるんですけど、そこと、これはヒット・アンド・ペイになるんでしょうが、もし採用できれば、こちらのほうがあっせん料を支払うというような形。

それと、先ほど言いましたように県立宮崎病院の先生、今は顧問ということですが、先生に21日に会って、そういうお医者さんがいないかという部分で協力をお願いしていきたいというふうに思っています。

ですので、できればそういう形で動いているんですけど、なかなか難しい部分はありますが、令和3年度に定着医を見つけたい。そうすることがやはり県の派遣の先生たちには影響してきますし、美郷町の医療提供体制の安全安心の提供になっていくというふうに思っておりますので、気持ちは変わりません。

以上です。

【議長 那須 富重】

町長の答弁が終わりました。

【9番 園田 義彦】

議長。

【議長 那須 富重】

9番、園田 義彦議員。

【9番 園田 義彦】

金丸総院長も医療体制の構築と定着医師の確保ということで勤務されておられますが、総院長の医師確保に対しての進捗状況とかはどのようなものですか。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

総院長が議会に出てということはなかなか難しい部分がありますが、結局、職員を辞めて非常勤の形を取ってるということもあります。今度の委員会審査、9月10日、金曜日に地域包括医療局のほうの審査がございますが、そこに来てしっかりと話ししたいということは聞いておりますので、総院長のほうからそこでお伺いいただければなあというふうには思うところでございます。

【9番 園田 義彦】

議長。

【議長 那須 富重】

9番、園田 義彦議員。

【9番 園田 義彦】

総院長は木曜日ですか、週1回、西郷病院のほうに勤務されておりますが、それ以外に医師確保はされているのかという点。

それと、また、その経過の報告なりは町長に対してあるものか、その辺りの状況が全く見えませんので、やはり退職はされましたけど、医療包括総院長ということで、そしてまた委員会審査もですけど、こういう執行部の幹部の方たちがおる前で答弁なりも必要ではないかなと思われそうですが、その辺りはどうでしょうか。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

議員がこう言うのも、もっともなことだと思っております。医療提供の体制という部分については総院長を交えて、今こういう状況というかそういう話の中では進めているところであります。

具体的にこういう人がいるとか、そういう話には至っておりませんが、今後、どういうふうに医療スタッフを確保しながらやっていくかというのは、定期的に医療局のほうとこちらの私、副町長、総務課長入れて、中身については相談をしているところでございます。

以上です。

**【9番 園田 義彦】**

議長。

**【議長 那須 富重】**

9番、園田 義彦議員。

**【9番 園田 義彦】**

今度の委員会審査に総院長が出席されるということではありますが、ただ、それはもう令和2年度の決算審査ですから、あまりこの医療体制、令和3年度の分はなかなか聞けない部分があるっちゃんないかなと思っております。

総院長ばかりというか、あまり負担がかかっても大変だろうなと思われれます。医師確保は県とかに要望に行くことももちろん重要であります。さっき町長が何か別に厚労省のマイナビとかそういうところがあるということですが、何か打診をしてみて「こういうことだったですよ」ということがあれば、お聞かせ願いたいと思います。

以上です。

**【町長 田中 秀俊】**

議長。

**【議長 那須 富重】**

町長。

**【町長 田中 秀俊】**

始めたのが先月ということではありますが、結構、医師の登録者数は多いということでもあります。その人たちが全て中山間地域に向いているのかというのは疑問であります。その中から、やはりこちらの条件の提供といいますか、合致したお医者さんを探していただくということでもあります。

ただ、その中において、こちらのほうに情報があつたのは熊本のお医者さんということで、女医さんということではありますが、その方が熊本のほうの、詳しいことはちょっと聞いてませんが、病院を辞めるという話の中で、やはり中山間地域辺を探しているという情報がありまして、美郷町の情報を流していかと、その会社さんからですね。「いいですよ」という話で、もしそういうことで合致すれば、非常にいいのかなあという部分がありますので、またそういう話になったときには、やはり面接等をして、お医者さんならだれでもいいという話でもなかろうと思っておりますので、そういうことでもあります。



です。その会社にしたことによって、そういう情報が入ってきてるという実態であります。  
以上です。

【議長 那須 富重】

町長の答弁が終わりました。

【9番 園田 義彦】

議長。

【議長 那須 富重】

9番、園田 義彦議員。

【9番 園田 義彦】

ぜひ、そういう面で努力をいただきたい。

定着医師が勤務されていないと、派遣の先生方はなかなか向こうも出しづらいいんじゃないかなと思っております。

南郷診療所には定着医師がいないから、美郷町へ派遣される医師が減らされることも考えられます。やはりそういうことは絶対、避けなければならないと。ぜひ、早めに定着医師の確保をお願いしたい。この核心部分ですかね。

それともう一点、南郷もですけど北郷診療所も、現在よりか医療体制が縮小されることがあってはならないと。そこはきちっと抑えていく必要があると思っておりますが、確認の意味で答弁をお願いします。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

南郷診療所が縮減されたら非常に大きな問題という部分は承知をしております。

ですが、前提条件として派遣の医師の先生、それと定着医という部分がどうして重なってきますが、そのように前よりかは減らないようにとかそういう部分では頑張りたいなあというふうには思うところであります。

そしてまた、リハビリ関係なんですけど、南郷のほうで介護リハビリとかそういう部分をしっかりと充実させて、こちらのほうの西郷病院でできない部分を南郷診療所のほうで実施するとかそういう部分はどんどんどんどんやっていきたいなあというふうには思うところであります。

議員皆さんの力添えとかそういう先生がおったら、どんどんどんどん会いに行って、「どうですか」という話をするしかないかなあという気がしております。

本当に先生の人間性にもよるかなあとう部分も非常に難しい部分であります、そういうことで縮減しないように努力していきたいということでもあります。

派遣の先生方についても、また近々議会の方々と大勢で行くことはできないでしょうが、また行きたいと。

ですので、どうしても年2回ですかね、医療薬務課のほうがお医者さんに対していろいろな形の面接をしていくという時期も重なってきますので、そういう部分で早めに対策は打ちたい、手は打ちたいというふうに思うところでございます。  
以上です。

【9番 園田 義彦】

議長。

【議長 那須 富重】

9番、園田 義彦議員。

【9番 園田 義彦】

ぜひ、そこに向けて最大限の努力を行っていくことが最重要であることを申し上げて、議長、次の質問、2番に行きたいんですが。

【議長 那須 富重】

2問目の発言を許します。

【9番 園田 義彦】

1問目の医師確保という件は、医師不足またもろもろの情勢もあって大変、困難であろうと思っております。

2問目は、ある程度、町長の判断でできるのではないかなと思ってる質問であります。2問目は、町内の遊具施設整備についての質問であります。これは要望という形になると思います。

御承知のとおりでございます。西郷レイクランドには子育て支援の一環または集客などの目的で遊具施設の整備がなされました。整備後は、温泉やレストランなど集客にもかなり効果があったと伺っておりますし、町内の子育て世代においてもかなり好評のようでございます。

ただ、南郷で言わせてもらえば、「もう少し近場にあると利便性がよい」とか、「保護者だけでなくてじいちゃん、ばあちゃんあたりでもちょっと遊びに連れていけるのだが」という声も耳にしております。やはり西郷同様、南郷、北郷にもそのような施設が設置の方向で検討を行っていくことが必要ではないかなと思っております。

町長の答弁をお願いします。

【議長 那須 富重】

町長の答弁を許します。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

遊具施設であります。今、北郷地区に小原児童館跡地、それと細宇納間運動広

場、黒木生活改善センター横、黒木小学校跡地、長野生活改善センター広場、それと西郷地区が葉桜公園、南郷地区が森の駅きじのという形で置いてるということでもあります。

ちょうどレイクランドがその遊具施設がオープンするときにはちょっと行っていろいろ話をしておいたら、南郷の方々がやはり来てました。「やはり南郷も欲しい」という話を直に聞き、そしてまたいろいろな町民の方々から「やはりここだけじゃなくて遊具施設を置いてくれないか」という声は私のほうにも届いておりますので、どういう遊具施設が要るのかどうか、場所的にも考えながら、それはやはり要望に応えていきたいと。

もともと子供たちの住みよい地域づくりという部分も入ってきてますので、やはりそういうことも大切かなというふうに思うところでもありますので、そういう形でやっていきたいと。

レイクランドはもともと夏場の施設ということで、子供たちが来ればお父さん、お母さん、それとじいちゃん、ばあちゃんたちもついてくるという考えの中で、温泉の売上げとかいろいろなことを考えた中での遊戯施設という立ち位置もございますが、あとの部分についてはやはり子育てをする人たちの要望をしっかりと聞いてやっていきたいと、そのように思っておるところです。

以上です。

**【議長 那須 富重】**

町長の答弁が終わりました。

**【9番 園田 義彦】**

議長。

**【議長 那須 富重】**

9番、園田 義彦議員。

**【9番 園田 義彦】**

そういう思いがあれば、大変、いいがなあと思っております。これはもういいんですけど、町民から見たら「何で西郷ばかり」とかいう声もあります。

この質問の通告後に私、聞いたんですけど、川村 義幸議員にも、南郷か北郷の方でしょうかね、「自分たちの地域にもそういうものを設置してほしい」と要望があったことは後から伺った話であります。たまたま私がこれを出しましたので、今回の質問事項から外されたということでありました。

やはりこのような施設の整備によって、集客もあるんですけど、私的にはやはり子育て支援の一環としての整備がいいのかなあと思っております。

現在のようなコロナ禍の中では町外に出ていくのもままならず、とかいって町内においてもそういう、西郷に今度できましたけど、ほかにはないというのが現状であります。本当にその面から見ても、設置が必要じゃないかなあ。

これは子供のゼロ歳から12歳まで、6年生くらいまでですかね。南郷地区が137名、北郷が108名、西郷が120名、まだ結構、子供たちも多いし、例えば、ふるさとに帰ってきたりしたり孫たちが。そういうときに遊びに来てもどこもないとか、川くらいしかない。だからそういうことも含めてぜひ、そういう設置を願いたい。

当然、財政的なことがかかってきます。ただ、レイクランドに整備したような多額の予算を伴うものでもなくともいいと思っております。そして、整備すれば同じようなものではなくて、もうちょっと幼児から五、六年生まで遊べるような、丸太とロープを組み合わせたとかそういうものもあれば、3地区あれば結構、遊びの選択が広がってくると思うんです。その辺りの思いでもあればお願いします。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

確かに子供たちの人口というのを見ると、非常に南郷のほう、北郷のほうも増えてきているということで、レイクランドの場合はもともとあった施設が老朽化したという部分と、先ほど話しましたように売上げとかそういう部分を考えたときに、遊具施設の再整備をやったということでの考え方かなあというふうに、私は整理してるんですが。

議員言いますように、普通の遊具施設というのはしっかりと、どこにどういうものが要るのかという部分も協議しながら、だから西郷ばかりという話ではなくて、やはり美郷町でという話に持っていかないといかんとかかなあという気がすることもあるんですけど、それぞれの地域性もありますので、そういう遊具施設をどこにどんげして何を置いてという部分は、また皆さんと考えながら、また、子供を持つ親と協議を重ねながら、そういう形では全然、やぶさかでないというふうに思っておりますので、やっていきたいと、それは思っておるところであります。

ですので、レイクランドに造ったような高額なものでもなくて、安全性がしっかりと担保された遊具を置いていきたいなどは思っておるところではあります。

以上です。

【議長 那須 富重】

町長の答弁が終わりました。

【9番 園田 義彦】

議長。

【議長 那須 富重】

9番、園田 義彦議員。

【9番 園田 義彦】

これは参考までであります。もし南郷なら、総合グラウンドの横、あそこは駐車場はもちろんありますが、トイレも完備されております。結構、広い芝生の広場が2か所あります。樹木もあって影もあります。本当、あそこは。当然、温泉もありますけど。あそこなんかだったら、ちょっとした遊具を置いて、横の半分くらいの芝生でボール遊び、サッカーでもできるような結構、広い土地があります。ぜひ、御一考、お願いしたいと思います。

議長、3番、次の質問に行きたいと思いますが。

【議長 那須 富重】

3問目の発言を許します。

【9番 園田 義彦】

3点目は、現在、第5波となって大変な猛威を振るっております新型コロナについての質問であります。

町民で接種を希望される方々の接種終了は、大体11月末頃ということでありました。この件については予定どおりと考えていいのか、ややもすると先にずれ込むことも考えられるのか、答弁をお願いします。

【議長 那須 富重】

町長の答弁を許します。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

65歳以上の接種がほぼ完了したと、7月末までにですね。そして今度はそれ以下ということになります。計画では11月末頃という話でありましたが、今の予定では10月末ということで進めております。

ですので、もう12歳から16歳の子供たちにも、そこの保護者のほうに要望とかそういうものが行ってますので、予定としては10月末をもって終わりたいとそういう方向で進めていきたいと思っております。

【議長 那須 富重】

町長の答弁が終わりました。

【9番 園田 義彦】

議長。

【議長 那須 富重】

9番、園田 義彦議員。

【9番 園田 義彦】

もしかするとそのことは防災無線で流れたかなと思っておりますが、私の家、1か月くらい防災無線が全く入らないで、ちょっともう不便だったんですけど。それこそ、2週間くらい前ですかね、直ったのは。

私の聞き違いかもしれませんが、五ヶ瀬は希望者の接種終了予定が9月末とか。それと、これは新聞で報道されておました。日之影町も9月半ば、諸塚は済んでますけど、椎葉村が10月中ということだったんですよ。で、うちが何で11月かな

と、思っておっての質問であります、10月末ということなら大変、結構であると思っております。

ワクチンの入荷予定ですね、もうこれは明確になっているのか。そのところをお願いしたいと思っております。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

入荷予定日は、もうはっきりしてると思っています。日にちまでは忘れましたが、課長のほうに報告させますけど。

結局、その入荷予定がはっきりしなければ後を組めないという部分もありましたので、今回、来た部分で全てが完了できるということでもあります。それがもし残れば、他町村のほうに有効利用ができるという話でありますので、その日にちははっきりはしてます。

日之影と何が違うかといったら、やはりちょっと人口差が違うかなあと。その分だけ、うちのほうが少しかかるという部分で考えていただければいいかなというふうには思いますが、その入荷日がいつくるのかという部分でやはりずれが出てくるという部分ははっきりしたことではなかろうかと思っておりますので、課長のほうから入荷日だけはお答えさせていただきます。

【健康福祉課長 黒田 和幸】

議長。

【議長 那須 富重】

健康福祉課長。

【健康福祉課長 黒田 和幸】

ワクチンの入荷予定ですが、9月27日の週に入荷するということになっております。これが週末でしたら、10月頭というような形になりますが、27日の週に最終で入ってくるということになっております。

そのワクチンで全ての町民の人数は網羅しているということで考えていただいてよろしいかと思っております。

以上です。

【9番 園田 義彦】

議長。

【議長 那須 富重】

9番、園田 義彦議員。

【9番 園田 義彦】

ワクチン接種の対象者という件であります。

もう医療従事者は恐らくもう済んでるだろうと思っております。あと、役場職員の関係者と介護関係、学校職員、幼稚園とか保育所の職員などの方々やはりちょっと優先的にしたほうがいいんじゃないかなと思っておりますが、その辺り。

それと、何か子供たちの感染力が物すごく高いという報道もされておりました。その辺り何か対応でもあれば、お願いします。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

またそういう部分については、課長に答弁をお願いしますが、優先接種という部分で、高齢者がするときにもある程度、やってきたという部分で、その部分は弾かれておりますので、ある程度、減っているということです。

あと子供のほうなんですけど、あくまでもやはり保護者の考え方といいますか、その部分でやはりどの年代に対してもですけど強制ではないということでもありますので、家庭内で今回は起こっているということもありますので、できる限り接種をお願いしますということで、こちらのほうは御案内をさせていただいているという状況であります。

詳しいことについては、課長のほうからお願いいたします。

【健康福祉課長 黒田 和幸】

議長。

【議長 那須 富重】

健康福祉課長。

【健康福祉課長 黒田 和幸】

ワクチン接種の優先につきましては、8月に入りまして65歳未満の方につきまして接種権を郵送したところでございます。

その際に、7月初めに65歳以下の方につきましては接種券を郵送したところでございます。受付につきましては、7月14日まで、障害のある方とかその施設に従事している方、保育士、教職員、消防団という形で先に受付をしていただいて、8月から接種をするという形で受付はしたところでございます。

中には漏れている方もいらっしゃいますが、その方たちにつきましても、普通の一般の方と一緒に接種をしていただくというような形の体制を取ったところでございます。

以上です。

【9番 園田 義彦】

議長。

【議長 那須 富重】

9番、園田 義彦議員。

【9番 園田 義彦】

このワクチンの接種を希望されない方々もかなりいるのかなあと考えております。昨日かその前ですかね、テレビで報道されておりましたが、コロナ感染の後遺症として、ややもすると酸素吸入器をつけたような生活を余儀なくされるようなことも報道されておりました。

その希望しない方々、「打て」というわけにはいかないかもしれませんが、「こういう状況もあるそうですよ」くらいの何か情報を流すとかは考えておられるものかどうか。

それと、ワクチン接種の3回目はあり得るのか、その点もお願いします。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

後のほうの「3回目」という部分は、ちょっと分かりません、私自身は。医学的根拠がどこにあるのかとかいろいろあると思いますので、そこ辺が分かっていたら、課長のほうで。

これ、多分、まだそういう国もあるということで、日本国がそういう形の中において3回目を接種しますよという話では全然なっていないので、それはもう国が判断することではなかろうかと思っておるところであります。

また、強制的にという話はなかなかできないということで、最初は7割、8割を打てば集団免疫で何とか乗り切れるのではなかろうかという話でありました。ですので、強制はしないということで今までやっているところだと思っております。

本当に強制はできないのかなあというふうに思いますので、後の問題でやはりいろいろな風評被害じゃありませんけど、そういうことが出てきたと。接種した後に、やはりこうだあだということが出てきますので、やはりしっかりとした防災無線、また区長会を通してそういうことはない。打って起こることと、全然違うことがありますので、そういうことはしっかりと周知していくしかないのかなあというふうには考えるところでございます。

【議長 那須 富重】

町長の答弁が終わりました。

【9番 園田 義彦】

議長。

【議長 那須 富重】

9番、園田 義彦議員。



【9番 園田 義彦】

あくまでも希望者ということで強制はできないんですけど、中学生3年生、9年生といいますか、もう来年は受験も控えております。この辺りも心配されるんですよ。打ってなかったら、ちょっと2週間とかあるもんですからね。何かこれに対して対応とか指導とかを考えておられれば、お願いしたいと思います。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

今のところ、そういう部分では私自身は考えておりませんが、教育委員会並びに課長のほうで、何かありましたらお願いをいたします。

【教育長 大坪 隆昭】

議長。

【議長 那須 富重】

教育長。

【教育長 大坪 隆昭】

中学生のワクチン接種につきまして、これは美郷町だけに限らず医師会のほうからも、「集団接種はできないのか」というようなことが教育委員会等に問合せが来ているところもあるようなんですけども、ただいま議員もおっしゃいましたように、やはり個別で希望を取って打っていくというのが基本になっておりますので、集団接種のような形で全員に打つというようなことは、今のところは動いてないということになっております。

そして、個人的にもう接種すると。先ほど、健康福祉課長が言いましたように、接種券を配っておりますので。そこで個人的に接種を受けている子供、そして、その子が接種したので一日、欠席しますというような子供も実際に出ております。

あくまでも個人の希望と、家庭での判断ということで接種をするようにはしております。

以上です。

【9番 園田 義彦】

議長。

【議長 那須 富重】

9番、園田 義彦議員。

【9番 園田 義彦】

分かりました。本当いろいろと大変でしょうけど、何とかよりよい対応で町民への感染ができるだけ拡大しないようお願いしたいと思っております。

次に、感染情報についての件であります。

町内で感染者が確認された場合、「美郷町で確認されました」ではなくて、せめて「南郷か北郷で確認されました」という公開の仕方はできないものかどうかを答弁、お願いします。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

非常に難しいところかなという気はします。

県の指針、公表できることと公表できないことということで区分けがされてます。ですので、公表できない部分については、これを読んでみますと、名前とか住所とかそういうことになると非常に個人情報保護という部分にかかってきます。

ですので、美郷町、何か分かりませんが、こういう形で罹患者が出ました。コロナウイルス感染者が出ましたということで周知すると、なぜかしらほかの人の一般の方のほうが知っていると。情報が早く行ってるということです。

例えば、こちらが「西郷から出ました」という放送をした場合、どう取るかという話であります。そこまで狭めていく必要があるのかということを考えてときに、やはり個人情報を考えたときに、こちらとしてはそこまではできないという判断をいたします。これは致し方がないかなあというふうに思っておりますので、今までどおり美郷町で感染者が出ましたということだけにとどめて、そういうことで周知徹底をするということで基本的にはスタンスは変えないと。

ただ、クラスターとかそういう形、普通、飲み屋さんとかそういうところから出たら、もうその人たちが「いいですよ」という話になったら別なんですけど、やはりそういうところは個人情報保護という部分の観点から、しっかりと守っていきたいというふうには思うところであります。

以上です。

【議長 那須 富重】

町長の答弁が終わりました。

【9番 園田 義彦】

議長。

【議長 那須 富重】

9番、園田 義彦議員。

【9番 園田 義彦】

三密とかマスクとか手洗い、不用な外出は止めましょうとか、そういうことも確かに重要であります。

ただ、その個人情報の詳しいことはできませんが、せめて南郷、西郷くらいの絞った形で情報を公開したほうが、やはり危機感というかそれも生んでから、感染拡

大防止の1つになると思われること。

それとあと、さっき町長も言われたとおりですが、実際、皆さん、もう感染情報がすぐネットに流れて、防災無線が入る前にもうかなり詳しい情報が入ってきてるようです。

ただ、高齢者とかはもうそれ以上の情報は入ってきませんので、もう町民全体にもう少し、せめてそこくらい地域くらいは公開するような情報を提供するのはいいんじゃないかなと思っております。

県が自治体を公表するのと大体、似たようなもんじゃないかなあと考えておりますが、あくまでも「できない」ということであれば、このまま平行線をたどっていくのでここで質問を終わりたいと思います。

最後に何かあれば、お願いします。

**【町長 田中 秀俊】**

議長。

**【議長 那須 富重】**

町長。

**【町長 田中 秀俊】**

確かに公表することによって、公表された地域というか守りは楽だということにはなるのかなと。

でも、今現在、守りとかそういう話じゃなくて、結局、どんどんどんどん感染力が強いデルタ株において、こういう形になってると、まん延防止等重点措置を取られていると。で、門川、日向市隣接する美郷、非常に危機感を持つという意味で、そういう状況だということを町民がしっかり把握していただきたいというのが先かなと。そしてその中で、しっかりとした公衆衛生上、高い意識を持って予防してほしいということだけしか言えないかなあと。

ですので、地域を云々ということよりも、やはりそういう状況だということをしっかりと町民が把握していただいて、予防を徹底していただくということのほうがより効果的かなあと。ですので、あまりこちらから、みんながどんどん分かって、あそこ辺じゃったげなという話と町がここまで出したという部分は全然、重みが違ってくるという気がしますので、今までどおり美郷町で感染が出ましたというような形にさせていただきたいと思っております。

**【議長 那須 富重】**

これで、9番 園田 義彦議員の質問を終わります。

**【議長 那須 富重】**

ここで、10分間の休憩とします。

開始を10時53分とします。

(休憩：午前10時43分)

(再開：午前10時53分)

【議長 那須 富重】

それでは、休憩前に引き続き、一般質問を再開します。

次に、7番、甲斐 秀徳議員の登壇を許し、1問目の発言を許可します。

【7番 甲斐 秀徳】

議長。

【議長 那須 富重】

7番、甲斐 秀徳議員。

【7番 甲斐 秀徳】

お許しを頂きましたので、一般質問をさせていただきたいと思います。マスクを外させていただきます。

今年は、いつになく長雨になり、いつの間にかに夏が過ぎたような感じがしておるところでございます。また、コロナ禍の中で行われましたオリンピック、いつ終わったんだろうといった感じでありました。前回の東京オリンピックは、私が中学3年生のときだったように思います。学校に1台しかないテレビを見て感動したものでした。今回のパラリンピックは違いました。手足に障がいがあっても一生懸命、頑張る姿に感動をいたしました。私も、100歳に向けてますます農業に精進しなければいけないなというふう感じたところでもあります。

今年の長雨、作物の変化がないといいなと思っておりましたが、栗が昨年より早めに収穫が始まりました。きっと美郷町議会でもめたことを察知し多分、びっくりして早めに栗が落ち始めたのではないかと考えているところです。

通常は、イガの中に3個入っているのが普通ですが、「今年は1個しか入っていないものが多く、また、虫栗でもないのに水に浮くものが多く、歩留りも悪く非常に小さいものが多いのが今年の特徴のようだ」と生産者が言うておりました。

9月4日の土曜日の夕方、UMKテレビ「U-d o k i」で、「美郷栗 世界へ」というタイトルで栗の特集がありました。見られた方もいらっしゃったかと思うんですけども、今後、あまりびっくりさせないようにしたらいいんじゃないかなというふうに思っております。

さて、本題に入りたいと思います。

今年の早期水稲は例年になく一等米が多く、虫の被害も少なかったというふうにJAの職員の話がありました。盆前までの出荷はよかったんですが、その後、若干、品質が落ちたということでございます。

昨年よりは500円ほど安い米買入れ価格、こしひかりJA米一等米が6,500円、二等米が6,200円、三等米が5,800円、規格外は5,300円であります。予約をしていない一般米は500円安い買入れだそうでございます。

来年は早期水稲の作付は減少するのではないかと考えております。普通米の買入れ価格は出ておりません。明日、理事会があるということで明日頃、決まるんじゃないかなということが今朝、電話がありました。

さて、町長にお伺いしたいと思います。

この西北山間地区のヒノヒカリ、「美郷産米」と言ったほうがいいと思いますが、食味ランキングにおいて特Aを連続2回、取得したことについて、町長はどのような評価をしていますか。お伺いしたいと思います。

【議長 那須 富重】

町長の答弁を許します。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

栗の話になりますが、UMKの「U-d o k i」でかなり長い時間をかけて放送いただきました。本当にいいPRになったのではなかろうかなというふうに思っております。今年の栗の品質ということではありますが、なかなかやはり気候に左右される農作物であります。難しい部分があるなあというふうには思うところであります。

そして加えて、この米でもありますが、やはりどうなるかということではありますが、しっかりと生産者が管理をしていて、また特Aを取っていただき、3年連続ということになれば、その価値はますます上がるというふうに思っております。

食味ランキング2年連続ということのでかなりの評価を得ておりますが、これはポイント制ということ聞いておりますので、それがどンドンどンドン特Aと重なればポイントが上がってくるということで、本当にありがたいというふうに思っております。

ですので、生産者の方が米を作る方々が一生懸命に栽培している米ですので、町としても、本当にしっかりと応援していきたいと、そういうふう思うところでございます。

以上です。

【議長 那須 富重】

町長の答弁が終わりました。

【7番 甲斐 秀徳】

議長。

【議長 那須 富重】

7番、甲斐 秀徳議員。

【7番 甲斐 秀徳】

今年も審査に向けて準備を行っている状況でございます。

私のところにいろいろな方々から電話がありまして、「お宅の米はえらいうまいという話ですが」ということで、「何で知ったとね」と言うと「テレビとか新聞で見た」と言うんですが、実際、私が何か作っているような感じでみんなが捉えているんじゃないかなと、非常にありがたいような迷惑のような感じもするんですが。早く言えば、「米を売ってください」と言わんばかりのところだろうと思うんですけども、なかなか私も会長をしている以上は、JAに出さないといかんというところの苦肉の策を取っているところでございます。

もうちょっと突っ込んだところで町長に聞きたいんですけども、3度めに今、挑戦しているんですけども、特Aが果たせたら、今後どのような対策を取っていくのかなあという。もしもですよ、もしも3度目が取れたらということなんですけども。

北海道辺りでは、10回連続の特Aを取っております。品種的には違うんですけど、いかに北海道の米がおいしいかということの現れでないかなというふうに感じております。

我々は、やはり中山間地農業のいいところを見せたいなという1つの思いもあるものですから、特Aが3回、4回と取れば、非常にありがたいかなというふうにしてるところですけども、町長はどのようにお考えでしょうか。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

「もし」と言わずに、ぜひ3年連続、取っていただきたいなあというふうに思っております。一番ネックは、その西北山間地域の米ということでの縛りがかかっているということでありますので、なかなか美郷町のお米ということでは売りに出せないということではありますが、そうは言うたものの、やはり努力している農家さん、こちらから出しているという部分でもしそうなれば、もう少し今度は美郷米というか、そういう部分で何かできないかという部分を考えていくしかないのかなあ。

ですので、JAさんと特選米ということで、JAひむか米ということでやっていますが、特Aを取って、一等米がといういろいろな条件がついた中でのひむか米でしょうけど、特選米ということで条件がついてますが、その中に美郷の米という部分は確立しておりますので、何とかして特選米という部分を美郷米というようなネームになるようなことができんかなあとかそういう部分を考えて、やはり美郷町産米の米という部分が出ていかないとインパクトがないという気がしますので、何かそこ辺がどうにかならないかという部分を、議員さんたちと何かそこ辺を突破できないかということで頑張りたいなという気がしております。

ですので、あと一つその特Aを取っている向こうの県南のほうですけど、全然、農協さんの頑張りが違うような気がしますので、そこ辺がやはりその差になるのかなあという気がしますので、本当にJA日向さんと一体として、もう少しうちの米をとという部分はやっていきたいと、そういうふうには思っております。

【7番 甲斐 秀徳】

議長。

【議長 那須 富重】

7番、甲斐 秀徳議員。

【7番 甲斐 秀徳】

こっちも準備を行って行って、町長は「ぜひ」ということですので、我々としてもそういうふうな形で動いていきたいなというふうに思っております。

ただ、やはりこの長雨がいいものか悪いものか、ちょっと今のところは分かりません。といいますのも、やはり皆さん、土手の草を刈って分かると思うんですが、伸びが物すごく早いんですね、切って。やはりそういう状況なものですから、米自体の伸びも早いし、恐らく台風が来たらバサッと倒れるんじゃないかなというふうには思っておるところです。だから今の時期に、水をためては切り、ためては切りというような形でやっておかないと。それと、防除を徹底しておかないと、今から先、カメムシが入りますので、そういうことがありますからしっかりしないといけないなというふうに思っておるところです。

やはり10回とまで行かなくても複数回、取れば、やはりその名は定着してくると思うんですね。実際、私の友達が宮崎にいるんですが、その方から、「いつもえびのから買ってたんですね。だけど今年はあるたこの米もうまいということで、10俵ほどくれんですか」という話がありました。その方もやはり農業をやっているんですけども、佐土原なんですけどね。やはりそういう人もおられます。だから自分のところと食べ比べて、やはり比較を今までしてきたのかなあというふうに感じておりますので、我々も中山間地ならではの米のおいしさというものをアピールしながら、そういうことでやっていければ非常にいいかなというふうに思います。

えびの市内の広々とした田園地帯とこの中山間地では手間のかけ方も変わってくると思うんですね。といいますのも、向こうは物すごく1枚の田んぼが広くて、ただの土手を四方の土地をちょっと切るくらいのこと、草も非常に手間が違うと思うんですね。我々は、1枚の田んぼをといたら、もう必ず傾斜面があって、その草木だけでも相当な時間と労力をかけなければいけないというところがあります。

ただ、やはり気候的には朝夕の温度差があるからうまい米もできるんだろうと。水に関しても、やはりちょっと強みがあるんじゃないかと思うんですね。昨年までは、やはりえびのはいろいろな問題で水の問題でトラブルってましたけれども、今年からははっきり水がよくなったということがあるんですが。

そういう利点を生かした今後のPRの仕方もあると思うんですね。できたら水も含めたPRを含めて、町長はどういうふうな考え方を持ってるかお聞きします。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

なかなか美郷町産米ということで言えないという部分が非常にネックだという話をしました。本当に米作りは難しいかなあというふうに思っております。

議員のほうに電話が来るのは、ちょうど特Aを取ったときに、テレビで議員がトラクターに乗ってそういう形でしょったから、非常に自分のところのPRにはなったのかなあという感じで、ちょうどテレビを見とったときにタイムリーだったかなあというふうに思っております。

ですので、中山間地域の米と今度は北海道という話になりますが、北海道の米がいいということであれば、緯度的にやはり米が山地向きになってきたということかなあ。ですので、酒米、酒蔵が北海道のほうに全部、どんどんどんどん行っているという状況を見れば、そういう米の生育条件が北海道のほうに集まってきたと

いう中で、やはり特Aを取っていくということは本当に至難の業というか大切なことであるというふうに思っております。

ただ、私の認識不足かもしれませんが、西北山間地域は結構、地域が広いという部分でいろいろなところでこれの普及センターはいろいろな形でやってるんじゃないかなと。たまたま2年連続、南郷のほうの米がすばらしいということで出して、その特Aになってきたという部分と、今度は逆に、椎葉の米から出たときにどうするのかという問題も出てくるのではなかろうかと。それが西北山間地域としては3年連続特Aという話になりますが、それを美郷町の美郷町産米と言えるかという話になると、やはり若干、ニュアンスが変わってくるということも考えざるを得ないということで考えたときに、やはりJA日向という部分で、今度はひむか米という部分は全然、動きませんが、美郷町産米をどういう形で位置づけしていくかという部分はなかなか難しくなってくると。

とはいえ、それに準じてるということで、特Aを取れば一番問題はありませんけど、またそこはそこで皆さんとともにそのJAの職員また関係者と、どういう形で売っていけば一番いいのかということ、結局、お金にしたときにどうなるかということでしょうから、そこをやはりしっかりと生産者のために詰めていったほうがいいというふうに思っておりますので、これはやってみなければ結果が出ないということですので、そういう立ち位置といいますか考え方で美郷の米を守っていきたいというふうには思うところです。

**【7番 甲斐 秀徳】**

議長。

**【議長 那須 富重】**

7番、甲斐 秀徳議員。

**【7番 甲斐 秀徳】**

町長が心配するのも当然だろうというふうに思います。

私も農済の評価委員会をやっていたときがあるんですが、この頃、農業の出荷状況を見てると、諸塚、椎葉はみんな1等米です、出すと。なぜかという、量も少ないんですけども、温度差がはっきりあるもんだから、そして虫もないんですね。だからほとんどが1等米です、出る分は。

だけど、何百体って出ないんですね。何十体くらいしか出ないから、そのところはもうあれだろうけど。でも、それでもそのポイントで検査に出せば、恐らくそれは通る可能性はあるというふうに、私も思います。

それはそれとしてでも、美郷産米は美郷産米のやはりいいところを列記して出していくべきじゃないかなというふうには思います。

特に、宮崎特選米のブランドを頂いておりますが、今後、美郷産米のマッチングをどのようにしてPRしていくかということ。

それと、ふるさと納税なんか反映していくのかということをお伺いしたいと思います。

**【町長 田中 秀俊】**

議長。



【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

ふるさと納税という形で今もやっていますので、それはそれで寄附額が1万2,000円で返礼品額が3,500円ということで、特選米はやってるということでもあります。

それと、宇納間米も寄附額1万1,000円で返礼品額が2,500円ということでやってると。

ただ、宇納間米については、在庫がないという、結局、一番問題はそういうことをしようとしても物がなければ先に進む話でも何でもありませんので、だからここがやはり一番難しいところかなあと。

それぞれの生産者も相対で出していますので、結局、JAさんにそれだけ供出米が集まらないという状況もあるのかなあと。ですが、これがある程度、農協さんが買い取れば、そういうこともないと思うっちゃけど、どんどんどんどん今さっき議員言いましたけど、落ちてきてるといふ部分が非常に心配になってくるなという部分であります。

ですので、今までどおりしっかりと特選米ということは揺るぎない事実でありますので、しっかりと売っていきたくと。

令和2年度は全部、1等米、2等米、3等米400円をつけたということで、結局、1等米を8,000円にするために農協さんが7,600円でしたので400円をつけて8,000円としたということで、まだ相対する人はまたそれ以上の高い金額を売ってるんだらうと思いますけども、そうすることによって少しは供出米が集まれば、いろいろな展開ができるという部分と、農家さんがありがたく、また頑張れるという2つの考え方でしておりますので、今年の21年産米もやはりそういう形で、農家さんの意欲をなくさないような形を取るのがよかろうと、そういうふうには思うところです。

以上です。

【議長 那須 富重】

町長の答弁が終わりました

【7番 甲斐 秀徳】

議長。

【議長 那須 富重】

7番、甲斐 秀徳議員。

【7番 甲斐 秀徳】

ふるさと納税では美郷の米はどのようなネーミングで売り出しているのかをお聞きしたいんですけど。

【政策推進室長 沖田 修一】

議長。

【議長 那須 富重】

政策推進室長。

【政策推進室長 沖田 修一】

ネーミングは宮崎特選米（ひむか米）と、あと宇納間米で出しております。  
以上です。

【7番 甲斐 秀徳】

議長。

【議長 那須 富重】

7番、甲斐 秀徳議員。

【7番 甲斐 秀徳】

ぴしゃっとした名前が打ち出せないというところに、やはりはぎらわしいところがあるんだろうと思うんですけども。

私がちょっと調べました宮崎県ヒノヒカリの口コミランキングの2021版、評判がよい順ということで楽天市場が出しているのがあるんですが、これは、ネーミングはほとんどあれですね。「九州産宮崎県産ヒノヒカリ」という形で出してるんですね。

面白い名前があるんですが、ヒノヒカリ洗美味米（あらうまい）というのがあるんですね。無洗米なんですね。洗うと書いて、美しい味の米（あらうまい）というようなネーミングで出してるんですね。これと2位が、やはりあらうまいなんですけども、これはどこが出してるのかと言ったら、宮崎県高鍋町なんですね。もう高鍋町がこれを見ると、ランキングを、ずっと何十位あるんですけど、ほとんどが高鍋町。なぜあそこが出すかということなんですよ。高鍋町と、それから川南町もあるんですね、結構。

これが面白いのが、単価的にはキロ498円、それから、1,360円というものもあります。一番高いのが1,360円かな。一番のやはり我々が敵対してるのがえびの産なんですけども、えびの産はなかなかこのランク的には上に上がってこないんですね。えびの産が出てくるのが27位くらいなんですけど、これがキロ単価2,000円です。全部2,000円で売ってます。

ただ、その面白いのは、売り方が「1年間届きます」と。10キロを3か月で4万2,000円、それとか20キロを無洗米、3か月定期で届けるのが7万7,000円とかそういう感じの定期コースで出してる。それでもやはりいい値段がします。これは1,283円かな。ほとんどが2,000円で売ってますね。だからえびの産あたりはもうそれくらいで売れるという自信があって名前を出してるのかなというふうに思います。

あと都城産のヒノヒカリ、特別栽培（ぼんちそだち）とか、そういう名前で、やはり宮崎県何々というふうな形を入れないといけないのかなあというふうに思うんですけども、そういうネーミングというのはこれは、何か規定か何かあるんですか。そこをちょっとお伺いしたいんですけど。

【町長 田中 秀俊】

議長。

**【議長 那須 富重】**

町長。

**【町長 田中 秀俊】**

そこ辺まで調べたことはありませんけど、結局、人の名前と一緒に何を付けてもいいのかなと。

ただ、その産地というか栽培履歴、ポジティブリストがはっきりして、農協さんのほうに、結局、特選米やらですれば、そういうものの栽培履歴とかそういういろいろな条件の中で特選米ということとされておりますので、名前をつけて出すというのは、その生産者が例えば、農協さんに出さなくて自分のところの何々農園とかいって出すことも全然、可能でしょうから、やはりネーミングは変えてもいいっかないかなという気はしてます。

ただ、それが正しいかどうかはちょっと分かりませんが、そういうことで売れるようにしていくという方法もあるのかなあと。

ただ、思うっちゃけどですね、宮崎県の人口が100万人としたときに、100万人に売ろうという考え方はしなくてもいいのかなあと。その1割といたら10万人という話ですけど、5%といたら5万人にというか、そういう部分で、うちのものがはけていくと、完全に。そういう考え方をして売っていけばいいと。

これにはやはり今度は、いっぱいそのリクエストが来たときにロットとしてあるのかという話になってきたとき、非常にまた問題が出てくるのかなという気もします。そのネームというかネーミングといいますかそういう部分はやはり考えていきながら、販売PRというかそういう形では大切かなという気はしております。

**【7番 甲斐 秀徳】**

議長。

**【議長 那須 富重】**

7番、甲斐 秀徳議員。

**【7番 甲斐 秀徳】**

ちょっと御参考までにお知らせしたいと思います。

J A日向特選米は5キロ入りでネットでは3,980円を出してますね。これを八菜館に出してるのは3,580円です。キロ単価がネットの場合は796円、八菜館では716円という単価になります。

それが今年は、明日、理事会があつて単価が決まるだろうということなんですが、県外から今、60キロが1万円を切った値段がこっちに流入してるというような状況です。といいますのも、どこの産地も今、過剰米を抱えていてコロナ禍で売れないからどうしようかということで、やはり値を切って出してるというところもあります。そういうこともありますので、非常に苦慮してるんじゃないかなというふうに思います。

実は、明日の理事会では、恐らく200円は下がるだろうと。去年の単価に比べて200円安くなるということですので、町長のほうには連絡が入ってるかなとは思いますが、それについて町長、今後の我々の対応というのはどういうふうにしたらいいものでしょうか、お伺いします。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

前回、農協の組合長以下、幹部の方に、もう少し高くで取ってこないかという話で、500円上げたと思うんですね。一等米の話ですけど、7,100円が7,600円になったと。ほんなら8,000円にするためにはということで、町が今度は400円出して8,000円にしたという経緯の中でやってきてますので、確かに実情としてはそうかなと思うんですけど、やはり米という部分を生産者は多数いますので、しっかりとしたうちの1次産業の中核を成すものであり、また、その景観とか。

それと、よく田んぼの水路等が小さなダムといわれる機能を果たすということを考えてときに、「はいそうですか」という話はこちらのほうとはいかんともし難いと。ただ、JAさんはいろいろな形でうちの米と諸塚の米、そういう形で差はあるということなんですが、その中で、美郷町産米という部分で少しは高くでという部分もあったとしても、やはり去年並みで買ってくれないかなあという気はしてます。で、うちが400円くっつけるという話でしたときに、今の議員のお話であれば、200円下がるということであれば、うちが200円足さないかんという話になりますので、やはりそうすることによって、生産者はそれでどちらからでもいいとは思いますが、やはり意欲として8,000円でいいとかという部分がありますので、もう少しやはりそこ辺は協議していきたいなあというふうには思いますが、最低、やはり8,000円の部分は町としては譲りたくないという部分がありますので、そこでやっていきたいという気持ちがありますので、その分はある程度、補助しなければならぬのかなあという部分は覚悟はしなければならぬと、そういうふうには思っておるところではあります。

【7番 甲斐 秀徳】

議長。

【議長 那須 富重】

7番、甲斐 秀徳議員。

【7番 甲斐 秀徳】

現状は現状だから、やはり何とかして生産意欲をなくさないためにも、まして耕作放棄地なんかを作らないために、また、それが加工用米とかいろいろなものにならないためにも、この生産の基本を崩さないためにはやはりどうかして200円の差の補填をできるようにお願いはしたいというふうに感じております。

量はそんげ出るか出らんかというのがまだ疑問なところもありますので、今年は。まだ稲刈りが始まっておりませんので、そのところも含めて検討をお願いしておきたいなというふうに思っております。

それから昨日、ちょっとツイッターを見てましたならば、観光協会の職員が10

月31日に東京全国美郷フェアの中で、美郷町米ヒノヒカリを販売する予定だそうですが、これはもう終わったんですかね、去年の件じゃないんでしょう。

これ、ちょっと、観光協会長じゃないと分からないかな。あったんですけど、そういうのは御承知ないですか。東京都庁とか横浜、それからいろいろなところで売ることが書いてありました。もう東京都庁の予約分は全部、完売しているということでありましたが。

そういう情報は入っていませんか、お伺いします。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

ちょっとそこまでは把握をしておりません。観光協会の中でいろいろな動きの中で、一社ということで、社団法人の中でもう独立という部分で出していますので、です、稼げる部分を稼いでくださいねという話をしております。

ですので、本当はやはりこちらのほうがある程度、情報を把握していなければならぬかなとは思っていますけど、そこはちょっと把握はしておりません。

ただ、いろいろな形で出ていくときに、コロナ禍の中でという部分は聞いてましたので、それもできないのかなという認識ではあったんですけど、ちょっとそこ辺までしっかりとした情報は持ち得ておりません。

【企画情報課長 田常 浩二】

議長。

【議長 那須 富重】

企画情報課長。

【企画情報課長 田常 浩二】

私どもはそういった情報はちょっとつかんでおりませんが、多分、去年の情報じゃないかなと思います。今年、都庁でも同じような観光物産を予定していたんですけども、こういうコロナ禍ということでやはり行くことを見合わせたらということをお話しておりますので、多分、それは去年の情報ではないかなというふうに考えているところでございます。

【7番 甲斐 秀徳】

議長。

【議長 那須 富重】

7番、甲斐 秀徳議員。

【7番 甲斐 秀徳】

すみません、それは私の。「10月31日」と書いてあるから、もうちょっとじゃがというような感じを受けていたもんですから。そんな中で、美郷産米を売っていくということで非常にいいかなと。

新宿のKONNEでも売るということも載ってましたので、やはりそういう1つの出かけて売るというのも1つの手だろうというふうには感じております。また一緒に粟も持って行って売るということですので、そういう美郷の農産物の販売も一緒に心がけてほしいなというふうに思っております。

はい、それは分かりました。

それから、JA日向との連携・強調が今後の売込みの販売促進につながると思いますが、町長はどのように今後の考え方をしてるのかというのをお聞きしたいんですが。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

基本的には、先ほど申しましたようにやはり美郷産米の米をどう売っていくかということにかかってくると。特選米ということで、それぞれ農協さんの立ち位置がありますので、それはそれとして、今後やはり厳しくはなってくると。

でも、よくよく考えたときに、相対で売る人たちはそれで売ってるという事実がありますので、何で農協さんはそこでできないのかという話をやはり煮詰めていきながらやっていきたいなあと。組合長以下幹部の方とも直に話して、やはり同じ歩調を取ってやっていきたいというふうには思ってます。

ですので、うちの一方的な話だけではなくて農協さんの話を聞きながら、どうするかということやはり大切にしながら、今後やっていきたいと、そう思っております。

【7番 甲斐 秀徳】

議長。

【議長 那須 富重】

7番、甲斐 秀徳議員。

【7番 甲斐 秀徳】

宮崎特選米というのは、やはりネーミングはあるんですけども、それはJAを通して、その会員でなければいけないという規定がありますので、なかなかそのところまで達することはできないハードルもあります。

ただ、やはりその中で全然、「美郷」というのが出てこんから、今後はやはりある程度はそこは別個として美郷産米というのは何がしかつけて売るということも必要じゃないかなというふうに思いますが、今後の。

どっちにしてもネットで売るときは農協から引いてきて、それをどこかに委託して売るということになるんだろうと思いますけど、やはりそういうところの関連付

をびしゃっとしていただけるかどうかということをお伺いしておきます。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

宮崎特選米という部分には全然、問題はありませんので、そういう形の中で、美郷産米、美郷の米という部分のPRという形でやっていけばいいのかなと。

また、宇納間米は「宇納間米」という銘柄というかネーミングがありますので、それはそれでいいと。あと、南郷、西郷の部分は美郷米という形でやっていけばいいのではなかろうかと。宇納間米がどれくらいの、結局、宇納間米はある程度、沖縄という部分を目指してますので、JA云々という部分はそんなに考えてないんですけど、あと美郷米をどうするかということになったときには、その形でやればいいのかあとというふうには思っております。

ですので非常に難しいところでありますが、やはりこちらがJAさんと話しながら、価格のつり上げというかやはりそこ辺になっていくかなあと。最終的にはどこ辺で折り合いをつけるかという部分で、簡単に幾らという話はできませんけど、やはり生産者の意欲をそがないように頑張ることが大切だと、そういうふうに思うところです。

以上です。

【7番 甲斐 秀徳】

議長。

【議長 那須 富重】

7番、甲斐 秀徳議員。

【7番 甲斐 秀徳】

③と④のところがちょっとかぶってくるんですけども、町長がさっき言いましたように、宇納間米が沖縄のほうに行くけど量が足りないというような状況ということでした。

去年は、沖縄への売込みは米不足ということで、JA日向の幹部の方が断りにわざわざ沖縄まで行っております。沖縄へこちらから一方的に売るばかりではなくて、やはり逆に豊見城なんかの特産物も我々も買う必要があるんじゃないかと思うんですけども、それについては町長はどのようにお考えですか。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

その姉妹都市ということで豊見城という部分をやってるという話ですが、こういうものがありますよという話の中で、広報等で町民に周知徹底するのはいいかなと。

ただ、本町がそのものを買うとかそういうことまではしなくてもいいんじゃないかと。季節、季節でやはりこちらのほうからホオズキができた、いろいろなものができたという話の中では、ちゃんと向こうのほうに豊見城市長宛てにこちらのもを送ってますので。また向こうは向こうで、やはりいろいろなマンゴーが取れましたよという話の中では来てますので、そういうことは町同士ではやはりそういうスタンスの中でずっと姉妹都市というかそういう形で続けていくという形がいいかなと。

これは、生産物ですので、やはり今度は農協さんのほうの力を借りて、どちらかと言うと促進活動、販促活動になりますけど、農協さんが主でありますので、やはりそちらのほうとの絆を強くして売っていったほうがいいかなと。その中で、市長とかそちらの副市長、課長等々と交流会をして、「今後もお願いしますね」という形のスタンスのほうがよりいいのではなかろうかと私は思っております。

【7番 甲斐 秀徳】

議長。

【議長 那須 富重】

7番、甲斐 秀徳議員。

【7番 甲斐 秀徳】

町長と私と数年前に沖縄を訪れたときに、やはり美郷、宇納間米が足りなくて、そこだけが空っぽだというような状況を見てきたところでございます。我々も何かしらやはり向こうの状況に応じて、手助けをしたらいっちゃんないかなというふうには私は思います。

今、沖縄は黒砂糖が余って、いろいろなことで困っているという話を聞きました。だからやはりそれを、JAさんなんかでもいいですけど、少しそういうものにテコ入れさせてやって、我々も売るばかりじゃなくて、こっちからも買ってあげるといような形を、マンゴーが一番いいんでしょうけど、日向もマンゴーをいっぱい作ってるから、そこまでいかんだろうと思うんですけど。

マンゴーは、物すごく向こうのものは安いんですね。パックで言っても1,000円もしないとか、1個が200円とか300円で結構あります。それこそ形はいびつですけども、味はもう全然変わらないから、そういうことも踏まえてやはり今後、そういう商売も、誰か、農協を通してでもいいですが、やはりそういうことも考えていかなきゃいけないんじゃないかなというふうに思います。

都農の駅のところに、一番壁側のところに、沖縄産の何かありますよね。ちんすこうやらいっぱい置いてあるところが。あそこみたいなくらいに、ちょこっと置いていただければ、日向でもちょこっと何か置いてることがあるといいますが、やはりそういうものを、販売促進もしていただいて、我々もその努力に報いなければいけないなというふうには思います。できたら、そういうことでお願いしたいと思います。

それでは、ちょっと今度はまた話が変わるんですが、5番目の新型コロナ禍で米の売上げが落ち込んでいる現状、農水省は在庫解消に米飯促進支援に動き出してお



ります。コシヒカリを作付けた大規模農家では、コロナウイルスの影響で東京のホテル、スーパーなどとの契約がなくなり多くの米の在庫を抱えているので、苦肉の策を取っているところでは。

策として、加工米なのに転売しているところもあるということを知っています。来年度からはポット苗のブドウ栽培とか米加工とか飼料米などの作付に転換して、生き残りをしていくということを知っています。この前、テレビで見ました。やはり我々と違って、何反歩じゃなくて何十町歩、何百町歩だから。それに抱えている人間と機械の償却、いろいろな借金の返済とか、やはりそういうことを考えると、手放しで喜んでいられないところもあるんじゃないかというふうに思っています。

コロナ禍で外食用米は伸び悩んでおります。そのため、今年度産米が過剰になると、価格に響いてくるのではないかと懸念しているところでございます。このようなことに対して、町長はどのようにお考えでしょうか。私が先ほど、渡した農林大臣の談話もあると思うんですけど、それを踏まえてよろしくお願ひしたいと思ひます。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

確かにこれから先、状況を見たときに、そういう形で報道がされてるということでもあります。全国的に見てそうだという話ではありますが、先ほど、言いましたように、それを全国向けに相手にするのかではなくて、1%とかそういう5%の人たちに相対するのかということ、また考え方も変わってくるのかなあと。

早期の米はある程度、全国的に流通していきますけど、JAの担当によりますと、普通作はある程度、こちらのほうで消費できるということで、その部分が過剰として残るということはないというふうに聞いておりますので、何とかそこ辺でこちらの米を消化してほしいというか、そういうふうに思うところです。

ですので、情勢はそうであるかもしれませんが、うちとしてはやはり主食用米という部分をスタンスに置かなければならないというような気がします。

ただ、生産者によりましていろいろな形を取るとことは出てこようかと思いますが、やはり何かしら先のほうに、こういう気候変動の中におきますと食糧危機というかそういう部分があるんではなかろうかというような危機感というか、そういうものを考えたときに、やはりしっかりとした中でやる必要があると。

ですので、そんなに町としては、例えば、飼料用米とかいろいろな形の中での変換という部分はそんなにこちらがこうしなさい、あしなさいという必要はなからうと。ただ、生産者がそういう形に持っていくと。

一番大切なことは、やはり作っていくということだと思います。主食用米にも変えられるいろいろな形でやはり田んぼを維持していくと。その中で、本当に一番いいのは主食用米を作っていくということで、結局、畜産農家さんとかいろいろな形が変わってますけど、その方々はそういう形でやってほしいし、やはり米を作っている人たちは今のままでやってほしいというのが気持ちであります。

以上です。

【7番 甲斐 秀徳】

議長。

【議長 那須 富重】

7番、甲斐 秀徳議員。

【7番 甲斐 秀徳】

やはり「生産過剰、生産過剰」と言われると、やはりどうしても価格に影響してくるんだろうと思うんですね。だからそれが我々に対してどのように反映してくるかというのが、やはり一番危惧しているところなんだと思うんです。

ある程度、今のところ、この辺りの方々はほとんどが個人の相対取引とかそういうものでやってるからこそ成り立ってるんですけども、やはり今度、インターネットなんかで売るとかふるさと納税で売るといときは、やはりみんな棚で並べてこうして見ますので、値段とかで。そういうことになったときに非常に問題が生じてくるかなという気もしておりますが、今後はやはりそこのところをしっかりとしないかなと大変じゃないかなと思っております。

農林省としては、生産過剰だから生産調整をしてくれということも言わんばかりですよ。それで今後、やってくださいと。ほかの作物を作ったら、こういうふうになりますよと。一番今、書いてあるのが、飼料米が一番、まだ空きがあるから、それを作ってくださいよというふうな感じが、この前から日本農業新聞のほうには載っております。

「農水省が示す適正生産量が693万トンの達成」と。「6月末までに主食用からの転換を進める」と。「余裕があるのは飼料用米だけ。全国で推進するが、特に在庫を抱える産地は努力が必要と。国が農家出荷した場合は、主食用米をJA段階では飼料用などに転換できる対策を処置した」というふうに書いてあります。

だから、やはり流れは今後、少し変わってくるんじゃないかなという気はしておりますが、そういうことを踏まえて、今後していかないといかんと思っております。

これは私が思うには、景気が悪くなると思うけども、これ、逆に捉え方次第だろうと思うんですね。当町の強みは中山間地米としての特色あるうまみなどがあり、リピーターとか長年のお客さんがおり、売り先には不自由はないと思っておりますが、だからこそ先ほど言われました北郷の宇納間米のJAの出荷が減ってると思われれます。

また、検査がないので、どれでも一等米としての価格で売れるという強みがあるもんですから、どうしてもそういうふうになかなかのほうに走っていくと。そうすると、もうお客さんのほうもうまいということを知っておりますので、だからそういうことで、いつでも生産者と消費者との関係がつながっているんじゃないかなというふうに思います。

この前からJAの方がおっしゃってました、早期水稲の場合は早く売ってしまわないと困るということで、在庫を、もう農協が買い入れたらすぐ売ってしまうというような形で、関東方面とか関西方面に行ってしまうということです。

問題なのは、今度、普通米になったときになかなか集荷ができないと。町長がさっき言われたように、やはりそういう状況が発生してくるので、今後、売り方も問題だということでもあります。今後、JAから引き取ること自体が非常に難しいと。JAが引き取ることが難しいと。まして200円下がれば、非常に。

福岡県のある農協では、9割近くを全額、すぐに買い取って、すぐそれを1週間

後には現金にして口座に振り替えてみんなに配るといふようなことで、ある程度、規制はあるんですけども、そうやっているところがあります。それは、福岡は博多という消費地がついているからこそできるんだらうと思うんですけど、我々のところはなかなかそうはいかないと。

ただ、やはりJA自体、最終的には米不足ですね。結局、売る米がなくて、どこかの農協から買ってというふうな形で。あまり言いたくはないんですけど、そういうことをしないと賄えないというふうな状況が今まで続いておりました。

だから今後、やはりもう少し、我々は増産しても問題はないんですけども、値段が値段なら、やはりそれなりの対応をしていかないと今後も生産者はそれについていけないんじゃないかなというふうに思いますが、最終的に町長の考えをお伺いしたいと思います。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

議員さんがおっしゃるとおりだと思いますが、東京ナイトクラブという歌がありますけど、JAでないと困るといふような農協さんになってほしいなというふうに思うところであります。

ですので、やはりそういう形の中で、JAさんが農家さんをどう評価していくかということにかかってくるのかなという部分で、JAは大変でしょうが、こちらのほうもやはり農家さんを守るために話していきたいということで、みんなで手を携えてといふか、やはりそういう形でやるしかないのかなと。

確かに情勢はそうだということで、国のほうも一反当たりこういうものを作れば、これだけの奨励金を出しますよということ、どんどんどんどん違う形に変えていくと。それだけでいいのかという話になると、そうでもないというふうな気がします。現状を見ながら、やはり農家さんと話しながらJAさんと話しながら、そういうことになろうかと思えます。

以上です。

【7番 甲斐 秀徳】

議長。

【議長 那須 富重】

7番、甲斐 秀徳議員。

【7番 甲斐 秀徳】

ちょっと米について、最後のお願いです。

前回、県庁に行ってえびの市長さんなんかと一緒に名刺交換をしたときに、市長の名刺には、「特A米」と書いてあるんですね。だから、あそこ辺り、あんなにしても、大っぴらにポッとやるんですね。だから、我々も「特A米」と書かんでもいいんですけども、やはり美郷産の米ということ、全職員、全議員あたりの名刺の裏か表でも

いいですけど、やはり美郷産米というものをアピールしていく必要があるんじゃないかと思うんですが、これについてはどんなお考えでしょうか。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

そうですね。それはそれでPRになるかなというふうに思っております。そのときのTPOで、私も観光の名刺、栗の名刺、その時その時で使い分けておりますが、一番使っているのは今は栗かなという気がします。

ですので、特産品を。誰かが言ってましたね。「みんなが名刺をやる時、ここ、みんなばらばらじゃな」と。統一してないということもそういうことかなあという。統一する必要もないと思いますので、いろいろな形の中でそういう特産品のPRとか、それを名刺に反映させるというのもいいかなと。そういうことも考えていくほうがいいなあ。私は割と栗を使っていますので。「栗を」という部分がありましたので。

分かりました。

【7番 甲斐 秀徳】

議長。

【議長 那須 富重】

7番、甲斐 秀徳議員。

【7番 甲斐 秀徳】

やはり美郷の3区合わせて全員が取り組んでますので、これについては全力で皆さんの御支援をお願いしたいというふうに思っております。

やはりPRが一番、何と言ってもあれですので、今後いろいろなエリアでもいろいろなものを使ってやっていただければ、非常にありがたいかなというふうに思っておりますのでよろしくお願ひしたいと思います。

次に、行きたいんですが、時間的にどんなでしょうか。

【議長 那須 富重】

2問目の発言を許します。

【7番 甲斐 秀徳】

続けていいですか。

どんなですか。いいですか。

【議長 那須 富重】

15分ありますから、一応、継続してやります。

**【7番 甲斐 秀徳】**

それでは、観光への取組について、お伺いしたいと思います。

コロナ禍であり行動の自由があまりなくなってまいりました。特に、集団での集まり、飲み会、行動までがセーブされるようになり2年目を迎えております。おのずとストレスなどがたまっている状態であろうと思います。

テレビを見てみますと、静岡の富士山がよく見える広い有料キャンプ場などでは、冬でもソロキャンプをしておられる方がテレビ放映されておりました。

一方、北郷板ヶ原オートキャンプ場でも、私が通りかかったときはいつもキャンパーがいるような状態でございます。どこから来るのか分かりませんが、延岡、日向などが非常に近く便利で、家族連れで楽しんでいるじゃないかなというふうに思っているところでございます。

この前、耳川温泉の話聞いたときに、耳川温泉もソロキャンパーを迎えるようなことを言っておりましたが、南郷などのキャンプ場、町内のそういう状況はどのようになっていますか。

また、利用客数が分かりましたら、お伺いしたいと思います。

**【町長 田中 秀俊】**

議長。

**【議長 那須 富重】**

町長。

**【町長 田中 秀俊】**

その数字的なものは課長のほうから報告させていただきます。

確かにコロナ禍の中で、一人キャンプとかいろいろな形で形態が変わってきてると。おっしゃるように町内にそういうキャンプ場、北郷地区に言われるように板ヶ原のオートキャンプ場、スカイロッジ銀河村のキャンプサイトの2か所、南郷地区には水清谷ふるさと村オートキャンプ場があるということで3か所あるんですが、結構、そこの利用が増えてきているということで、ありがたいなあというふうに思っております。

また、当年度ですけど、そういうキャンプ関係の事業といいますか提案というか、それをコンサルに委託しておりますので、その結果で今後の町のそういうキャンプをするがための整備というか、そういうことにも力を注いでいきたいというふうには思っております。

ですので、いいことではなかろうかと、町としては。関係人口になるのか、交流人口になるのか、定住人口になっていくのかは分かりませんが、よそから来ていただくということは本当にいいことだと思っておるところであります。

以上です。

**【企画情報課長 田常 浩二】**

議長。

**【議長 那須 富重】**

企画情報課長。

**【企画情報課長 田常 浩二】**

それで利用の状況について、私のほうから御報告させていただきたいと思います。

これは令和2年度の実績ということでお聞きいただきたいんですけども、水清谷ふるさと村オートキャンプ場、南郷地区ですけども、これは令和2年が利用者数が290人ということで、平成30年度の利用者数が119人でしたので、比較しますと240%程度の増ということになっております。

それから、スカイロッジ銀河村のテントサイトですけども、利用の区画数が令和2年度が30区画、平成30年度が16区画でしたので、こちらと比較しますと187%の増となっております。

それから、板ヶ原オートキャンプ場、こちらは管理人なんかを置いておりませんので、利用の人数ですとか区画数はちょっと把握できません。よって、電源ですとかシャワーの利用の売上額で比較しております。令和2年度の電源とかシャワーの利用の代金が6万5,200円、平成30年度が3万5,900円でしたので、比較いたしますと181%の増ということになっております。

以上です。

**【7番 甲斐 秀徳】**

議長。

**【議長 那須 富重】**

7番、甲斐 秀徳議員。

**【7番 甲斐 秀徳】**

やはり相当の伸びだなあというふうに感じております。

今、特にコロナ禍の中なので、やはりユーチューブとかいろいろなそういうものを見る機会が増えてきたので、余計そうではないかなというふうにも感じております。

道の駅などでよくキャンピングカーなどをよく見ます。一番安全な場所で買物ができ、トイレが24時間使用できるということで停まっているんだろうと思います。

また、夕方は近くの温泉に行って、また戻ってきて道の駅の駐車場で料理をして飲んで寝るとというのが主流のような感じがしております。オートキャンプ場では、電源、水道、トイレ、外で火が使えるのが魅力で、県内でもそんなに多くはないんですが、もちろんほとんどが有料ですが。

今後そのような場所づくりということで、町長が言ってましたように「今後、進める」ということですので、その場所的に増えるのか、その内容を充実していくのかということをお伺いしたいと思います。

**【町長 田中 秀俊】**

議長。

**【議長 那須 富重】**

町長。

**【町長 田中 秀俊】**

今の施設をそのコンサルがどういう形でという部分で出てきたときには吟味して、

新たにという話じゃなくてもいいのかなあと。ある程度の既得権があるという部分でいいと思っております。

使用料を取ったほうがいいのか否かという部分はまた問題があるにせよ、やはり板ヶ原は何も置いてないということで、それだけの人が来ると。そこに結局、いろいろな形で是非はあろうかと思えますけど、人が入ってきてくれることが大切かなと。

このコロナ禍が終わったときにこういう形がどんどんどんどん進むんじゃないかなと。外国のインバウンドたちが、外国人がやはりどんどんどんどんまた入ってくる可能性があるということだと私は思っております。ですので、そういう状況の中で、今ある施設を充実させていったほうが良いというふうには思っております。

【7番 甲斐 秀徳】

議長。

【議長 那須 富重】

7番、甲斐 秀徳議員。

【7番 甲斐 秀徳】

来ていただいて、ごみだけを残して帰っていただくというよりも、やはり金をある程度、落としていただけたというのがやはり1つの基本だろうと思うんですね。何がしかの金でも。だから板ヶ原みたいに金を落としていってもらえば非常にありがたいなというふうに思っております。ほとんどの方は、キャンプに来られる方は近くのスーパーとか何かで食材及び飲物を買ってこられる方がほとんどだろうというふうに思います。じゃあ、どこで稼ぐかというのが問題だろうと思うんですね。

となると、やはりそのところに使用料というような形が、先ほど言ったように電気料の徴収とかそういう方法しかないんだろうと思うんですけどね、結局的には。

それについて、町長はどのようにどういうふうにお考えでしょうか。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

稼げる観光という部分でのキャッチフレーズもありますので、ある程度のお金にしていくことは必要だと、そういうことは思っておりますが、そればかりに走ってお客さんが来なくなるという部分は元も子もないという気がしてますので、先ほど、言いましたようにコンサルに出してますので、その助言を受けてどういう形がうちにとってベストなのかという部分を探っていきたいと。

私としては、やはり施設の充実はさせていきたいと思って、そういう部分についてはやはり利便性とそしてある程度の利用料は取って行って、そんなに法外なとか高くないような形で設定して、やはり入込客とか入ってくることで自体が美郷町のためには非常になっていくと。その人が、「こんげなところがあってよかったよ」という話をさせていただきだけでも、また違った形で町内にお金が回るのではな

かろうかと、そういうふうに思いますので、そういう方向に進めばいいかなというふうには思います。

【7番 甲斐 秀徳】

議長。

【議長 那須 富重】

7番、甲斐 秀徳議員。

【7番 甲斐 秀徳】

町長の令和3年度の施政方針の中で、観光の振興ということで書いてあります。

「美郷町観光協会は民間であるので、民間ならではの発想やフットワークを生かした稼ぐ観光、経済の循環を目指す」とありますが、先ほど言われましたように稼ぐ観光と経済の循環をどのようにするのかということをお伺いしたいと思います。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

観光協会を外に出したという意味と、こちらが持っている資源の活用という部分はほとんど同一であろうとは思いますが、結局、一社の観光協会の立ち位置ではいろいろなPRの中で稼いでほしいという思いであります。

ですので、幾ら「無料、無料」という話をしていく必要もないと。ある程度、その対価は取っていったいいと。

ただ、観光という部分でこのオートキャンプとかそういう部分と今度は温泉とかそういう部分はまた別問題かなあと。コテージを使うとかそういう。これはあくまでもオートキャンプという話の中での議論ですので、そこに法外なというか、結局、来ないような使用料を取るとかそういう話じゃなくて、ほかの部分ではある程度、ちゃんと施設も造ってますので、そこでは使用料を取って、(一社)観光協会のほうでお願いするというところで、それが循環すればいいという話であります。

【7番 甲斐 秀徳】

議長。

【議長 那須 富重】

7番、甲斐 秀徳議員。

【7番 甲斐 秀徳】

先ほど、私が言いましたように、来ていただいてごみだけ落として帰るとするのは、稼ぎ方ではちょっと、若干なりの金を落としていただければ非常にありがたいなというふうに思っております。

その中でも「アフターコロナを見据えてホームページ、SNSなど多様な媒体を



活用した情報発信に努め、観光振興につなげていく」ということになっておりますが、具体的に言いましてどういうふうな施策で行うのかをお願いいたします。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

結局、コロナが終わったときに、先ほど言いましたように非常にいろいろな方が歩くんじゃないかなと。歩くというか出かけていくという気がします。今まで「虐げられた」という言葉が妥当かどうか分かりませんが、やはりいろいろな形でストレスがたまってるのではなかろうかと。それが全て解除されると、ある程度の制限はついたとしても。そうすると、いろいろな形で温泉に来たりいろいろなところに泊まったりということで、今度はそういう観光の活性化が図られていくと。

ですので、これから先もある程度、ワクチン接種が終わったときの全国的にですけど、どういう形になるかというのは、やはりそういう形になっていくのではなかろうかという気がしていますので、(一社)観光協会とともにやはりそこ辺はしっかりPRをしながら稼げる観光に結びつけていくのが、それが本来ではなかろうかなというふうには思います。

以上です。

【7番 甲斐 秀徳】

議長。

【議長 那須 富重】

7番、甲斐 秀徳議員。

【7番 甲斐 秀徳】

一番最後にちょっと、①の最後にしたいと思います。

今、テレビで言われておりますように、2回接種したならばいろいろな会合をやってもいいし行ってもいいというようなことを何か、いいの悪いのという賛否両論はあるところでしょうけども、そういうことも踏まえて、今後、この状況を考えていかなければいけないんじゃないかなというふうに思いますが、それについて、町長はどのように思いますか。

アフター、それこそアフターコロナですけど。具体的に。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

「先が」という部分では、はっきりと読めない部分はありますが、結局、これが収束する日はいつかは来るということでしょうから、そうなったときどうなるかという話で、今の様な状態がずっと続くのかということにはならないと。やはり人が今度は回り始めると。だからその時、その時にしっかりとみんなでその状況を把握しながらのことになるかなという部分と、ある程度、こうなるだろうという予測というかそういう中で動くしかないのかなと。ですので、「こうなる」という部分は、やはりいろいろな情報を集めてするしかなかろうというふうには思っておりますので、絶対こうですよという部分はないという気はしています。

【7番 甲斐 秀徳】

議長。

【議長 那須 富重】

7番、甲斐 秀徳議員。

【7番 甲斐 秀徳】

どんげしますか。そのまま続けますか、それとも昼からでもいいですけど。

【議長 那須 富重】

それでは、もうブザーが鳴りましたけど、あと2番めですね。

それでは、ここで、休憩に入りたいと思います。

再開を13時とします。

(休憩：午後12時02分)

(再開：午後12時59分)

【議長 那須 富重】

それでは、皆さん全員おそろいのようなので、休憩前に引き続き、一般質問を再開します。

午前中の甲斐 秀徳議員の質問の続きがありますので、お願いしたいと思います。

【7番 甲斐 秀徳】

議長。

【議長 那須 富重】

7番、甲斐 秀徳議員。

【7番 甲斐 秀徳】

昼一番で、頑張っていきたいと思います。

②の件です。

おせりの滝遊歩道、大変、整備されて評判もよく好評のようでございます。コロナ禍の中での心の癒やしなりを多くの人じゃないですけどもパラパラ伺うがっているような感じがしております。

ただ、あまりにも木々に覆い尽くされて見えづらいという御指摘がございました。

木の枝、葉っぱも景観の一つでありますので、そう簡単に切るわけにもいきませんが、遊歩道付近の木々はどうかかなというふうに思っているところでございます。

美郷町景観計画というものがあまして、美郷町が出してるものがあるんですが、これを見ますと、いろいろなことが書いてございますので、そういうことを踏まえて町長の答弁をお願いしたいと思います。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

おせりの滝であります。県営事業によって遊歩道等を整備して、非常に利便性がよくなったということで、本当にお客さんというか観光客の方が来ていただいております。

ワイワイでもおせりの滝が出ていたと思いますが、涼を求めたいという部分でしっかりとPRをしていただいております。

それで見るときに、「ああ、この辺かな」という感じはしていたんですが、これは企画情報課に聞きますと、いろいろな形で業者さんに行ったということですが、なかなか「足場も」という部分で大きくなってきてなかなか切りづらい、そして、切ったら今度は遊歩道とか枝が行って壊す可能性もあると。

そしてかてて加えて、あそこ、おせりの滝の緑地環境保全地域ですので県の指定をされていると。むやみやたらに伐採をしたらいかんという制約もかけられているということであります。景観的に滝がしっかりと見えないとかそういうことであれば、ちゃんと1回現地を踏まえて、どれとどれを切るかというような形で、また県のほうにそういう申請を出してやっていくしかないかなと。

でも、場所が場所ですので、本当に危険な作業になろうかと思っておりますので、その安全性を担保してどういう形で切ったほうがいいのかというようなことを含めてやっていきたいと。

もしそういうことになれば、また予算的な部分も出てくるかなあと思っておりますので、もう少し時間を頂いて、おせりの滝という形の中でしっかりと景勝地が残るような形にしていきたいと、そういうふうに思うところです。

【7番 甲斐 秀徳】

議長。

【議長 那須 富重】

7番、甲斐 秀徳議員。

【7番 甲斐 秀徳】

そういうことでやっていただければ、非常にありがたいなというふうに思います。一度に一遍に切るんじゃなくて数年かけて少しずつ切っていけば、そんなに違和感はないと思いますので、一遍にバサッとやるよりは数年かけてやっていただければ、

非常にありがたいなというふうに思っております。

それから、私が一番気づいたのは、レイクランドの湖面なんですけども、国道より湖面が非常に見づらく、前回、切っていただいたのは町長が副町長時代ですね、我々が第1期生のときに切っていただいたのを覚えております。

これが、できたらそういうふうに切っていただくと非常にありがたいんですけど、ウェイクボードなんかをやっている姿をこの頃、頻繁に見ますので、やはり景観として非常に、こうして背伸びをして見るよりは、ゆたっとして見たほうがいいんじゃないかなというふうに思ってますが、これについてはどんなでしょうか。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

観光地の景観を維持していくという考え方によれば、あまり見えないような支障木といいますかそういうものは除去して、それと、気持ち的に明るくなるということはいいことですので、そういう部分でどうしてもこれは悪いなという部分があれば、やはりそういう努力はしていく必要があるかなというふうには思っております。

ですので、いろいろなところにそういう施設がありますので、計画的にやっていきたいと、そう思います。

【7番 甲斐 秀徳】

議長。

【議長 那須 富重】

7番、甲斐 秀徳議員。

【7番 甲斐 秀徳】

計画的に取り組んでいただければ、非常にありがたいなというふうに思っております。

それからもう一つ、景観ではないんですけども、美郷町という観光の中で、ユ一チューブがよく貼ってあるんですが、その中でドローンでばあっとやるんですけども、例えば、農村公園ですかね、あそこから飛んだのが出てるんですけども、できたら四季折々のそういうドローンに乗せてほしいなというふうに思います。

渡川のドローンなんかを見ていると、渡川はよく四季を通してやってるんですね。山師が仕事をやっている夏の仕事とか冬、刈上げ後のいろいろな行事の中でいろいろな人がやってる姿とか、それが1つの観光につながっているような感じがしてるんですね。いろいろなイベントをやっているところが出ております。その上に、神楽も含めた中でやっておりますので、そういうことの全体を含めた観光への取組をもう少し見直してほしいなというふうに思います。

今はそういう先ほど言ったようにドローンで下からぐわっと上がっていく姿なんかは、「ああ、こんなところもあるのか」というような物すごく我々も再発見するよ

うなところがございますので、そういうふうな取組についてを町長にお伺いしたいと思っております。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

議員おっしゃいますように、今そういう四季折々、そして場所も違うところ、いろいろな形で美郷町のPRができるように、そういうものを活用してやっていきたいと思っております。

それは今から先、しっかりとしたPRの一要因というか1つの手段として活用させていただきます。ありがとうございます。

【7番 甲斐 秀徳】

議長。

【議長 那須 富重】

7番、甲斐 秀徳議員。

【7番 甲斐 秀徳】

四季折々の美郷町のいろいろな場所の発見を、景観を発信して行ってほしいなというふうに思います。

美郷はこういうところもあるんだという、していれば、おのずと移住者あたりも見ると思っておりますので、やはりそういうことをしてみたいなという方がいらっしゃれば、またそれなりの価値が出てくるんじゃないかというふうに考えておりますので、企画情報課か政策推進室か分かりませんが、今後、十分、検討なされてやっていただければ非常にありがたいなというふうに思っております。

最後に、町長の答弁をお願いして終わりたいと思っております。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

全般的にいろいろな議員さんから、そして町民の方々から言われることに、しっかりと耳を傾けて是々非々、いいものはいいで取り入れて行ってPRをしていきたい、そういうふうに思います。よろしく願いいたします。

【議長 那須 富重】

これで、7番 甲斐 秀徳議員の質問を終わります。

【7番 甲斐 秀徳】

ありがとうございました。

【議長 那須 富重】

次に、5番、黒田 仁志議員の登壇を許し、1問目の発言を許可します。

【5番 黒田 仁志】

議長。

【議長 那須 富重】

5番、黒田 仁志議員。

【5番 黒田 仁志】

それでは、通告に基づきまして、一般質問を行わせていただきたいと思います。

この話はずっと当初から、この案件が始まってからずっと聞いている話であります。COVID-19についてのお話から始めたいと思います。

いわゆる今度の第5波でも、本町で感染があったということでもあります。そういったところの状況と現在の対応、そして今後の対応について、お考えありましたらお聞かせください。お願いします。

【議長 那須 富重】

町長の答弁を許します。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

コロナの関係での質問ではありますが、本当に今はやはりこれが一番の問題だろうと思っております。何を置いてもこれを解決することが、全てにつながるというふうに思っております。

美郷町の状況ですけど、8月14日と15日の公表分でそれぞれ1名ずつ、感染者が出まして、計2名の新たなコロナウイルス感染者が判明しました。

その中で、52例、53例めとなったということでもあります。その以降は、幸いにして感染者はいないということでもありますので安心してはおりますが、御案内のとおりまん延防止等重点措置の中で、日向市、門川が地域指定をされたということでもありますので、本当に油断は許されないと。いつどこで起こってもおかしくないという状況であります。

詳しい内容については、課長のほうから説明をさせていただきます。

【健康福祉課長 黒田 和幸】

議長。

【議長 那須 富重】

健康福祉課長。

【健康福祉課長 黒田 和幸】

今、町長が申しましたとおり8月14日、15日に1名ずつ感染者が出ております。

それ以降は出ていないというような状況なんですけれども、52例、53例めというような形で、町全体では今のところ53例めということになっておるような状況であります。

以上であります。

【議長 那須 富重】

答弁が終わりました。

【5番 黒田 仁志】

議長。

【議長 那須 富重】

5番、黒田 仁志議員。

【5番 黒田 仁志】

今、最近では全国的には家庭内感染が多くなっていると。感染経路等がある程度、分かればお知らせいただければいいかと思いますが。

【健康福祉課長 黒田 和幸】

議長。

【議長 那須 富重】

健康福祉課長。

【健康福祉課長 黒田 和幸】

52例めにつきましては、職場での感染ということで、職場内に事前に陽性が判明したというところで、濃厚接触ということで検査したところ陽性であったということになっております。

53例めにつきましては、その御家族ということで聞いております。

以上であります。

【5番 黒田 仁志】

議長。

【議長 那須 富重】

5番、黒田 仁志議員。

【5番 黒田 仁志】

本当に刻々と局面が変わっていきながら、いわゆるデルタ株というものの感染ということがよく言われてるんですが、そういった型というのはどういう感じなんですか、従来型かデルタ型か。

【健康福祉課長 黒田 和幸】

議長。

【議長 那須 富重】

健康福祉課長。

【健康福祉課長 黒田 和幸】

その型につきましては、従来型であるということのようであります。今問題になっておるデルタ株とかそういうものではないということは聞いております。

【5番 黒田 仁志】

議長。

【議長 那須 富重】

5番、黒田 仁志議員。

【5番 黒田 仁志】

先ほど、園田議員からもあったんですが、どこというのはいいにしても、例えば、デルタ株だったとかそういう新しい株だったということが分かった場合には、やはり町民に告知してほしいなど。より感染力が強ければ、やはりそれなりの対応というのは必要になるかとも思いますので、そういったことも告知してほしいと思うんですが、いかがですか。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

確におっしゃるとおりかもしれません。どれくらい置き換わっているのかちょっと分かりませんが、それがはっきりした形の中で、その罹患者がデルタ株だという確証が保健所でつかめて、「ですよ」という話ならば、「今こうだ」という話ができるかなど。周知はできると、そういうふうには認識します。

【5番 黒田 仁志】

議長。

【議長 那須 富重】

5番、黒田 仁志議員。



**【5番 黒田 仁志】**

本当に局面が変わってきて、この後の質問にも関係するんですけど、デルタ株はお子様方への感染もあるということであれば、やはりそれなりの対応が大きく変わるところもあると思いますので、ぜひそういったところ、また御配慮頂ければというふうに思います。

これも先ほど、園田議員が聞かれたところと被ってくるんですけども、ワクチン接種の件です。

先ほど、「いつぐらいに」という話だったんですが、今現在で、美郷町としてはどれくらいの方がワクチンを打たれているのかという件。

そして、先ほど、園田議員がちょっとおっしゃったんですが、近隣の町村のワクチン接種状況、分かる範囲で構いませんので、お知らせいただけませんかでしょうか。

**【町長 田中 秀俊】**

議長。

**【議長 那須 富重】**

町長。

**【町長 田中 秀俊】**

接種状況でありますけど、65歳以上の高齢者につきましては、7月末でほぼ終了しているということで、9月1日付の住民基本台帳を対象数値とした接種率は8月31日までで1回目の接種率が85.6%、2回目接種率が83.6%となっております。

また、16歳以上65歳未満の一般住民の接種につきましては、医療従事者及び施設従事者を含み1回め接種率が57.7%、2回目接種率が20.2%の接種率ということであります。町全体では1回目が71.4%、2回目が54.2%となっており、先ほども言いましたように12歳以上16歳未満の接種については、8月末までに接種券を送付しているということであります。

ですので、計画的な接種が行われれば、10月末には大体、終了するだろうという計画の中で実施をしていると。近隣町村の接種率という部分で、ちょっと私は数字を持っておりませんので、課長のほうからお願いします。

**【健康福祉課長 黒田 和幸】**

議長。

**【議長 那須 富重】**

健康福祉課長。

**【健康福祉課長 黒田 和幸】**

今、手持ちでVRSというワクチン接種をしたら打ち込むシステムがあるんですけども、それによりますと、ちょっと具体的な数字は公表はできないんですけども、日向市で1回目接種率が40%の中頃ですね、2回目接種率が40%ちょっと切るくらい、門川町につきましては1回目の接種が60%を超えるくらい、2回目が約50%、諸塚は一番高いですね。1回目接種率が80%を超えています。2回目が80%ちょっと切るくらい、椎葉村が1回め接種が50%の中頃、2回目接種

率が40%ちょっと超すくらいというような形になっております。

ちょっと具体的な数字ではありませんが、以上です。

【5番 黒田 仁志】

議長。

【議長 那須 富重】

5番、黒田 仁志議員。

【5番 黒田 仁志】

すみません、ちなみになんですが、先ほどありました8月14、15日の感染者の方、この方々はワクチンの接種というのはいかがだったのでしょうか。

【健康福祉課長 黒田 和幸】

議長。

【議長 那須 富重】

健康福祉課長。

【健康福祉課長 黒田 和幸】

ちょっと今はその状況については把握しておりません。申し訳ありません。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

調べてみる必要がありますけど、年齢から言うと、65歳以上ではないということですので、打ってないと。

ただ、優先接種があったかどうかという部分も分かりませんので、多分、打っていないのではなかろうかと、そう推測はされると。でも、確かではないということでございます。

【5番 黒田 仁志】

議長。

【議長 那須 富重】

5番、黒田 仁志議員。

【5番 黒田 仁志】

今、町内と近隣もお伺いしたいんですけど、近隣でちょっと今、気になったのが、椎葉が低い。人口的な割合でいったときに、椎葉もう少し高くてもいいのかなと思っただけですけど、何か情報が入ったら、教えていただきたいと思うんですけど。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

先ほど言いましたVRSということで、終わったらどんどんどん打ち込むという話で、その打ち込む部分がどれだけ進んでるかという部分もあると。街場に行くと、同じタブレットみたいなものがあって、全部やるという話の中で、なかなか容量とかスピードとかそういうものの中でやはり誤差が出てきてると。

ですので、そこ辺の詳しいのはもう一番、その町村の担当というか。それを聞いてまたそこ辺を出せば、全然、数字的なものは違うというふうには思っております。

確かに人口が少ない西米良村、諸塚村、もうほとんど98%、99%くらいは終わってるというふうに思っておりますので、また、詳しい内容を調べてから出したいと思います。

【5番 黒田 仁志】

議長。

【議長 那須 富重】

5番、黒田 仁志議員。

【5番 黒田 仁志】

そういった詳細は、また今後、お知らせいただければというふうに思います。

なぜ今、そういったことを聞いたかと言うと、やはり先ほど、町長もおっしゃったように、やはり日向、門川圏域がまん延防止等重点措置の対策に入っているということなんかを踏まえたら、やはり圏域として止めていく必要があるのかなあというふうにも思うので、そういったところもやはり考慮していかなければいけないのかなということも思って、ちょっとお伺いしたところです。最後にちょっと4番めのところで、またお伺いします。

先ほども話をちょっとしたように、児童生徒への感染、いわゆるデルタ株の場合は、児童生徒への感染が非常に懸念されると。若齢層への感染というものが懸念されるということでもあります。

国では、閉校措置がどうたらと、全国的にやるかやらないかみたいな話もあったんですが、国としては、もうやらないと。それは当然だと思っておりますけれども。県としても一応、出たときの対応をいろいろ考えているという話も少しは聞いておりますが、町としては、今後、学校の中で1人でも感染者が児童生徒に出た場合とか、そういった何か方針を持っておられますでしょうか。

【教育長 大坪 隆昭】

議長。

【議長 那須 富重】

教育長。

【教育長 大坪 隆昭】

現在の段階では、まだ子供たちが感染したというような報告は全く受けておりません。

ただ、非常に危機感を持って対応していかなければならないということで、8月の後半に入ってから2学期が始まる前に校長会を開きまして、校長等とも話をしていきながら、どういうふうに対応していくかというようなことを話し合っております。

その結果、県の方針に沿ってやっていこうということで、県立学校の場合、1人でも出たら臨時休校にすると。そして、保健所の指示を仰がずに、もうそのまま校長と県教委の判断でやっていくと。それはもう保健所の業務負担軽減ということも考えながら、一旦、臨時休校にすると。その後、校内の消毒等もありますので、二、三日の様子を見て、その間、今度は保健所の指示を仰いで、臨時休校を継続するか、また元通りに戻すかということ判断して、学校を再開していこうというようなことを話し合っております。今のところはそれでいこうと考えているところです。

以上です。

【5番 黒田 仁志】

議長。

【議長 那須 富重】

5番、黒田 仁志議員。

【5番 黒田 仁志】

新学期が始まってすぐだと思うんですが、今時点で、その恐怖感を感じるからとかいうそういう理由で休んでおられる生徒さんとかもいないということよろしいですか。

【教育長 大坪 隆昭】

議長。

【議長 那須 富重】

教育長。

【教育長 大坪 隆昭】

欠席の状況は、毎日、報告するようにはしておりますが、心配とかがあった場合でも欠席扱いせず出席停止という扱いで休ませるようにはしているんですが、現在までに3人、4人という欠席がおります。

中に1人は、兄弟でしたかね、ワクチン接種を打った翌日なので、ちょっと体調の様子を見て休みますというような子供さんもおられました。そんなような状況です。

【5番 黒田 仁志】

議長。

【議長 那須 富重】

5番、黒田 仁志議員。

【5番 黒田 仁志】

県の方針で、1人でも出た場合に学校閉鎖ということですが、これは県、ずっと前から言ってるように、もしものときのそうやってきたときのリモート授業とかそういういったところの対応というのは、準備のほうはいかがですか。

【教育長 大坪 隆昭】

議長。

【議長 那須 富重】

教育長。

【教育長 大坪 隆昭】

現在、学校に配備しているタブレットにつきましては、本年3月末に西郷義務教育学校のほうに配備してから、南郷、北郷全てに配備されるようになったんですけども、このタブレットにつきましては、家庭への持ち帰りというものを前提として考えているところです。

しかしながら、現在、現状では各家庭のネットワークの環境が全然、違うこと。さらには、不正アクセス等への対応ということでフィルターをどう整備していくかということ。それとか間違っ落ちてしまったらどうするか。あと小学校1年生から中学校3年生までの取扱い方も全然、違いますので、そこ辺りの条件整備をしっかりとそろえた上で対応していこうというような考え方でおります。

そしてまた、例えば、西郷義務教育学校の場合は一番最後でしたけども、最新のものが入りましたので、新しい状況で入ってるんですけども、もう既に南郷と北郷の場合はややバージョンが古くなりつつあると。だからそれをバージョンアップしていくということを考えていくと、遅くとも10月末くらいまでには全ての学校が完全に持ち帰りができるような状態にはもっていけるだろうと。

ただ、先ほど言ったような条件整備がそろいませんので、しっかりとスタートできるのは来年度の4月1日になるんじゃないかなというふうに考えております。それまでに、必要な備品は何があるのかとか、先生方のスキルアップ、授業力、それを高めていかなければいけませんので、そういった準備をするためにはどうしてその期間が必要になってくるのかなあとということを考えております。

ただ、いつまでもコロナは待っておりませんので、もし、1人、2人かかった場合は、その家族にだけは希望があれば貸してあげるような、各学校3台程度は新しいバージョンにして準備はしているところです。

以上です。

【5番 黒田 仁志】

議長。

【議長 那須 富重】

5番、黒田 仁志議員。

【5番 黒田 仁志】

もうこのリモート授業の件は、かなり早くから言ってるわけで、やはり今の時点で準備ができてない。特に児童生徒への感染がデルタ株というのが激しいと分かった時点で、やはり夏休み期間だったということも踏まえると、やはりもう少し準備を進めておいてほしかったなというのが正直なところですよ。対応が後手後手にあまりにも遅くなってきているというのが1つ不満です。

先生方の対応力というところは、県なんかも補足というかそういうのをしてるんですよね、たしかそのように伺ってますが、そういったところはいかがですか。

【教育長 大坪 隆昭】

議長。

【議長 那須 富重】

教育長。

【教育長 大坪 隆昭】

研修という部分でそれをやっていくというようなことでやっておりますので、夏休み中に例えば、それぞれの学校でどういうことができるだろうかというスキルアップとか、その練習はもう当然、しておるんですけども。

ただ、今の段階で教室と家庭とつないでやっていくということ、教室にも5、6人残していきながら、家庭の人に対してどう対応するかというところがなかなか、まだ全然やっておりませんので、難しいところだなということは感じてるところです。

以上です。

【5番 黒田 仁志】

議長。

【議長 那須 富重】

5番、黒田 仁志議員。

【5番 黒田 仁志】

実際、私たちも会議室にいる人たちと各家庭とのリモート会議ってやるんですけど、やはり本当にやりにくいんですよ。どっちの話も何かぐちゃぐちゃになってやりにくい感じがするときもあるんですけど、できないことはない。何とかコントロールしようと、コントローラーの人次第なというふうに思いますので、やはりこれ、先生方であれば、そういったところのスキルアップを十分に可能かと思っております。

こう言っちはあれなんですけど、数名程度、「怖い」と言っただけの場合に試行してみて、試してみて、少しずつやはり実用性を上げるというのはまず必要なんではないかなと。一遍に上げるんじゃなくて、一つずつでも上げていくということがあってもいいのかなと思うんですが、いかがですか。

【教育長 大坪 隆昭】

議長。

【議長 那須 富重】

教育長。

【教育長 大坪 隆昭】

先ほど、答弁させていただきましたように、10月末からはもう今のところ、南と北が3台、西郷はもう新しいバージョンですからいつでも出せるんですけども、そのような準備はしているところです。

ですから、個人的に扱うことについては、もう3台くらいずつは出せるという状態にしております。

以上です。

【5番 黒田 仁志】

議長。

【議長 那須 富重】

5番、黒田 仁志議員。

【5番 黒田 仁志】

少しでも早く、子供たちがとにかく学力差、これを言ったら本当は病欠なんかのときもしょうがないと言えましょうがないんですけど、なるべくそれでハンディがつかないような対応というのはやはりするべきだろうと思います。

これがうまく行けば、例えば、いわゆるインフルエンザとかそんなんで出席停止になった場合でも、ある程度、症状が改善したらタブレットで授業に参加してねということも可能になりますよね。

となると、やはり少しずつでも学力差がつきにくくなっていくことも想定されますので、今回のこのコロナ禍をうまく利用して、そういった子供たちの教育環境への配慮というものを進めていただきたいというふうに思うところであります。

デルタ株、本当にどのような広がり方をしてるか、全然、見えてません。非常に怖くも思います。できるだけ一日でも早く、そういう試行的な対応ができないかという点を併せて、もう一回お願いします。

【教育長 大坪 隆昭】

議長。

【議長 那須 富重】

教育長。

【教育長 大坪 隆昭】

その点につきましては、もう本当に教育課挙げて危機感を持って、もうすぐにもやっ払いこうということで業者共話をして進めているところです。

先ほど言いましたように、3台ずつにつきましては、それぞれ貸出してできるようにしようということ。

それから、学校において、先進地というか県内でやっている西米良村の情報を聞いて、そしてやったところ、やはり授業で使うということよりは朝の挨拶、顔を見

合せて挨拶をして、今朝は何を食べた、今日は何をするのかという確認をし、12時半くらいにまたつないで、お昼御飯は何を食べたか、どういうことを勉強したか。また、3時頃につないで、今日一日、御苦労さんという話をしてやっていく。まず授業よりも前に、そういったお互いに連絡を取るだけでもかなり違ってくると思いますので、その3台はそういう形で非常に有効に使っていこうかなというふうに考えているところです。

それから、スキルアップに関しては、今の段階で考えているのは、冬休みが途中、入りますので、そのときにはもう全員、一旦、持ち帰らそうかなあと思っているところです。そして、これは教職員の負担軽減にまでつなげていこうということで、長期休業中の宿題、課題、そういったものもタブレットに入れて、そしてそれで回答させていくというような、子供たちのスキルアップそういったものにもつなげるようにしていくと、かなり有効に使えるんじゃないかなというふうに考えているところです。

以上でございます。

【5番 黒田 仁志】

議長。

【議長 那須 富重】

5番、黒田 仁志議員。

【5番 黒田 仁志】

ぜひ、道具をうまく使うということが一番重要ですので、ぜひ、また少しでも進めていただければと思います。

が、先ほども言ったように、もうこのことはかなり前から言っていることです。やはり準備が、町長部局、予算を持っておられるほうの考え方もあってのかもしれませんが、環境がないところ、「ネット環境がないところには貸出したら」という話もさせていただいたこともございます。だから少しでも早く、子供たち、今、何だかんだと言いながらも少子化の中でやはり人数としては昔ほどは多くないわけですから、対応していただきたいと。できるだけ早く子供たちが平等に、「平等に」というか同じような条件で動けるように対応していただきたいと思います。

そして、予算的などところで補完的などところができるかということ、町長、お願いしていいですか。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

そういうがための環境整備をやってきたということもありますので、詳細についてというか家庭内の環境でありますけど、やはりそういう部分を把握もしているということでもありますので、そんなに大きなお金はかからないだろうということを思っておりますので、負担のかからないようというか、結局、教科書がなくなってこれ



になっていくという考え方の中でやれば、ある程度、町が義務教育の立場ということで応援するという部分はよかろうというふうには思うところでもあります。

【5番 黒田 仁志】

議長。

【議長 那須 富重】

5番、黒田 仁志議員。

【5番 黒田 仁志】

もう本当にスポーツとかそっちのほうがりづらいのは分かる、やむを得ないところもあるんですけども、できることはできるだけ、やはりやらせていただきたいというふうに思いますので、ぜひ、対応をお願いいたします。

あともう一つなんですけど、町長、ずっと10月の終わりくらいに終結イベントというかそういったのをやりたいというふうにもおっしゃっていたんですが、それも含めまして、今後の町内の行事等の方針、町長、教育長それぞれまたお知らせいただければと思います。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

復興イベントというか、そういう部分の予算も計上してるということで、いろいろなイベントの予算を計上して、議員の皆さんに御理解いただいとところだったんですが、こういう形に、状況になってきたということで、いろいろな実行委員会の中で、結局、今がその時期かという話になってきたときに、やはりイベント開催は難しいということで、やはり中止をせざるを得ないという中で、町としては、やはり国のいろいろな形の中でのイベントの開催マニュアルといいますか、そういうものがありますが、やはりここに来ては、少しでもその高いリスクというリスクがある以上は、やはり中止したほうがこれは町民の理解を得られるという判断をしております。

ですので、敬老会も本当はこちらが言うべき問題でもありませんけど、区長会の中で、できたら弁当への配付とかそういうことだけにしてくださいという形をお願いをしております。

ですので、そのまん延防止等重点措置の地域指定が出るまでは、そうも考えなかったんですけど、やはりここに来てこのデルタ株というのは感染力が強いと。速い、そして毒性もあるということを見ると、やはり中止をするほうがベストというふうに思っておりますので、今後もやはりこういう方向性を一時、していくしかないかなというふうに思っております。

かてて加えて、復興イベントということで企画情報課のほうが行実行委員会の方々とどうするかということで話したら、「今その時期ではない」と、「やはり町民の理解は得られない」と。「それを今したって喜ぶ人はおらんぢやないか」ということで、

来年の3月6日に一応、延期をしたということでありませう。

また、そのときどうなっているかは分かりませうけど、一応、中止ではなくて3月6日に延期をしています。そういう状況で、町としてはやはり中止をしていくということかなと思っております。

**【教育長 大坪 隆昭】**

議長。

**【議長 那須 富重】**

教育長。

**【教育長 大坪 隆昭】**

教育委員会の所管する行事等につきましては、先ほど、町長の答弁でもありましたように、やはり実行委員会との話し合いを協議をしっかりと行いながら、状況を見極めて、できるだけ安易なといいますか中止とか延期というものは避けて、できるものはできるだけやりたいというふうに、実行委員会と協議をしていながら深めていきたいと、そういうふうに考えております。

ちなみに、学校関係では、今の段階、運動会は昨年度と同じように午前中だけ、昼食はせずに午前中だけの運動会で、できるだけ参加者を減らしてやっていこうかということにしております。

それから、修学旅行は、もう業者との関係もありますので、県内での修学旅行ということで、小学校の6年生とそれから中学部の2年生、それについてはそういうふうにやっていこうというような動きをしているところです。

以上です。

**【5番 黒田 仁志】**

議長。

**【議長 那須 富重】**

5番、黒田 仁志議員。

**【5番 黒田 仁志】**

今のところの段階だとやむを得ないところもあるかと思っております。

教育長おっしゃったように、安易に中止ではなく、実行委員会自体を開くこと自体も厳しいところはあるのかもしれませんが、本当、感染状況がどうなっていくのか、このワクチンで収束していくのかということのも本当まだ実証例が出てきてないところではあるかというふうにも思うところですが。

だから、本当、いわゆる去年の第2波、第3波くらいが起こった年末年始くらいの数字というのが1つの基準になってくるのかなと。あそこで抑え切れるのかどうか、それがワクチンが効く、効かないということの理論になってくるのかなあというふうにも、私も思わないところはないんですけども、非常に難しい判断だとは思いますが、なるべく安易な中止、延期ではなくやっていただきたいというふうに思うところがあります。

先ほど、近隣の状況を聞いたというのは、やはり町内の施設、温泉等そういったいろいろな施設の今後の運営方針というものにもある程度、関わるのかなというふ

うに思ってお伺いしたところもあるんですが、そういった温泉等の施設、今のところ9月12日ということになってますが、どのようなお考えですか。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

感染を恐れて自粛、自粛ということになると、いろいろな部分で不具合が起こるという部分は何か分からんでもないんですけど、町民の安全安心を確保するには、やはりそれをせざるを得ないと。

温泉については、どうしてもうちが開いておけば門川と日向から来る可能性、その確率がすごく高いという部分ですので、やはりどうしたって今の事態、12日まで見てということになろうかと思えます。うちも温泉等々は開きたいんですけど、やはりその時期ではないというふうに思っておりますので、このまん延防止等重点措置がどういう形で行くのか。

それと、言うようにこのワクチンの効果という部分が非常にこうだから大丈夫ですよという部分がまだ示されていないという部分がありますので、そこ辺はやはり医学的検知と申しますか、そういう部分で判断していただいて、ある程度、いいですよという話の中では公共施設等を開放していくというほうがいいかなと。

確かに開催してオープンしてという部分は気持ち的にはありますけど、やはりそのことによってということが非常に心配されますので、リスクがある以上は当分はもう少し明るい材料が出てこない限りは、やはりこういう状態かなというふうに思うところです。

以上です。

【5番 黒田 仁志】

議長。

【議長 那須 富重】

5番、黒田 仁志議員。

【5番 黒田 仁志】

やむを得ないところではあるかというふうに思います。

ただ、1つだけ気になるのが、来月くらいから各地区で秋の祭りが開催されているかと思えます。こういったものに対して、どのようなお考えかというのをお聞かせください。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

町でも町政懇談会、それと地区別戦略等々でこちらから出かけて行ってということとで予定を組んでました。9月部分は全部キャンセルということで、一応、9月を過ぎて10月頃からまた行っていききたいと。それも本当に状況次第かなと思っております。

敬老会、先ほど言いましたように、こういうことでお願いしたという経緯があります。今度はその状況によるんでしょうけど、そこは地域の区長さん、氏子さんいますので、その中で判断をしていただくほうが、行政のほうから「こういうやつは止めてくださいよ」と言うべきものではないというふうに思いますので、そこは地区のそういう方々の判断によっていいのかなというふうに思うところであります。なかなかやはりその判断をする人たちも非常に苦渋の選択をしなければならないのかなあというふうに思います。

ですので、区長さん方から、「もうせんならせんごと、役場が言うてもらったほうが楽な」という話はいっぱい聞きますので、それもそうかなと思うところもありますけど、あまりそういうものを行政が言う立場でもありませんので、やはりその中で、実行委員会の方々がその地域の情勢を判断して、しっかりと正しい方向で判断していくのかなと思っておりますので、町のほうからどうのこうのという部分はないというふうに、私は考えております。

【5番 黒田 仁志】

議長。

【議長 那須 富重】

5番、黒田 仁志議員。

【5番 黒田 仁志】

私はそれでいいと思います。

例えば、自分のうちの地域内だけの人間だけで集まってやるとか、そういう形の祭りでもなきやいかんというふうに。特に思うのが、神楽とか臼太鼓とか、南郷地区それぞれ全部、残ってるわけですが、もうただでさえ担い手が減ってきている状況で、これで2年、空いたときというのは、正直言って、神楽のあれって忘れていってしまって、次にやるときに、「どんげじゃったかね」からまた始めにやいかんというのも大変だということもありまして、できたらだから、そういった趣旨、何とかそういったことだけでも保持しなきやいかんよという話だけでも回してもらえると。

本当、祭りがなかったら正直、練習をやる気もなくなるんですけども、何とかそういった伝統文化の維持というものをつないでいかないと、未来はなくなっていくという非常に怖いところにもあるかというふうにも思いますので、できましたら、そういったところで判断頂ければというふうに思うところであります。そういった意味で、また非常に大変な局面だとは思いますが。

1つだけ言わなきやいけなと思ってました。

うちのワクチンの接種方法ですね。私も1回め受けたんですけど、非常にいいと思いました。自分たちが動かずに先生方が動いてくれることで、本当、距離間もしっかり取っていきけるし、私たちが動かない分、人と話さないですよ。動いたら、どうしても人と会うとしゃべるんだけど、じっと座らせられたらしゃべることも

きない。非常にいい対応だというふうに思っております。本当にいい、ナイスアイデアだったというふうに思います。お疲れさまでございます。一日にも早く、また町民全員に、希望する人全員にワクチンの接種が終わり、そしてカクテルですか、今、治療薬のカクテルなんかも出始めているみたいなので、そういったものの確保なんかもしながら、一日も早く平常な状態に戻れることを期待しているところであります。

今後とも、大変でしょうけど、対応のほうよろしく願いいたします。

2問目に入りたいと思います。

**【議長 那須 富重】**

2問目の発言を許します。

**【5番 黒田 仁志】**

2問目の発言は、10年後の美郷町についてということであります。

今月頭にありましたまちづくり懇話会で町長、私と一緒に出ておまして、お互いにヒントなり課題をそれぞれ見つけたようなところではございましたが、要は町民の皆さん、そして議員の皆様にも、もうちょっとこのまちづくり懇話会のまち・ひと・しごと創生総合戦略のことを御理解いただくためにも、ちょっとこの質問をさせていただいたほうがいいのかなということ、準備させていただきました。

「10年後」とありますが、いろいろな統計の都合上、2031年、ここの数字がある程度、示されているので、ここを基本的なところの目標としてお話を進めさせていただきたいというふうに思います。

まず最初にですが、この2031年のところで、本町の人口、どのようになるのか、高齢化率はどのようになるのか、子供たちの数はどのようになるのかということをお示しいただければと思います。

**【町長 田中 秀俊】**

議長。

**【議長 那須 富重】**

町長。

**【町長 田中 秀俊】**

社人権と社会保障・人口問題研究所と、それと、今それこそ地区別戦略の中で出している数字、そっちのほうの数字のほうがより正確かなあというふうに思っております。

ですけど、これも推計ですので絶対という話はなかろうと思っておりますが、今よりか減るということは確実な話であります。ですので、10年後といいますと、今、2021年、2031年ですが、自分自身が生きてるかどうかという話であります。あと10年後といったら、そんなに若くはない。75歳ですので、これはやはりおらん確立のほうが半分、半分であるっちゃんないかなあという気がしてしますので、減多なことは言えんということですが、そならんがためというか、自分がそうならんがためじゃなくて、町がそうならんがためにどうするかという話をやはりやっていく必要があるというふうに思っております。

ですので、国調でよくやっていますけど、それが一番時系列的にしっかりして

ると。それにいろいろなものを加えてということで、コーホート変化率とかいろいろなものをしたときに、担当の数字を言いますと、これは一般社団法人 持続可能な地域社会総合研究所、持続地域総研と、今から先は読みますが、これが今、地区別戦略で使っている数字であります。

その中では、その推計によりますと、高齢者数が2,182人くらいになるということでありまして。高齢化比率は高くなって56.1%と現在よりもさらに高齢化が進行しますということです。また、児童生徒数につきましても2020年の274人に対して192人まで減少することが予想される。192人くらいになるということでありまして。

ですので、先に行けば行くほどある程度、人口は減ってくるという話でありまして、その実態を踏まえて今後、どうみんなやっていくかということが非常に大切かなというふうに思われるところです。

本当に第1期の美郷町まち・ひと・しごと創生総合人口ビジョンというのが平成27年9月に出来てきてますけど、そのときの人口予想と、またそれから5年後という部分で、大分、変わってきてるということで、本当に減ってくるという予測だけが確実かなあと。

そのこの人口がどのくらいかという部分は予想はされている部分で、それは正確ではありませんけど、そういう形になっていくであろうという前提の中で、今をどうするかということだと思っております。

以上です。

**【5番 黒田 仁志】**

議長。

**【議長 那須 富重】**

5番、黒田 仁志議員。

**【5番 黒田 仁志】**

私、この前頂いた資料を見ているところなんですけど、10年後で、ここに書いてあるのが3,766人の予想で56.9%と。これを今、総合戦略では4,414名、50.3%の高齢化率に止めようというのが今の目標だというふうに聞いてます。子供の数も2031年、271名の予想を458名、相当やはり頑張っていかなければいけない想定が出てるんですが。

やはり、これくらいの目標を維持していかないと、今の予想でびっくりしたのは、2066年の予想で、何もしなかったとき929人になると、美郷町の人口が。そのような推計が出ています。それを、何とか頑張って3,270名に残していければと。本当にこれ、大きな取組、頑張っていかなければいけないということでありまして。

そのまま行ったときに、子供たちの数は48人になると。それを、頑張っていけば子供たちが517人残る可能性がある。これは、頑張らにやしようがないというふうに、私は先日の会議のときに思って聞いておりました。

本当に一つ一つの集落の取組というのがお答えになってくるといいなというふうに思っているところなんですけど。

その10年後の主要な産業、今とそんなに変わらないとは思いますが、どのように捉えておられるかというところを教えてください。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

10年後ということで物を話せば、そんなに大きな産業の変化はなかろうと。やはり地形が変わるとかそういう話ではありませんので、若干、気候等の変動はあったとしても、やはり農林業が主体ですので、そこをしっかりとした基盤の中でやっていく必要があると。

その農林業の在り様も、少しはIT化というかそういう部分で変わろうかとは思いますが、やはりその第1次産業を主とした美郷町であるのではなかろうかと。やはりそこに軸足を置いて、産業の振興をしっかりとしたもので図っていく方がいいのではなかろうかというふうに思っておるところです。

【5番 黒田 仁志】

議長。

【議長 那須 富重】

5番、黒田 仁志議員。

【5番 黒田 仁志】

そういうことです。10年後ではそう大きく変わるはずはないんですが、やはりこれだけの毎年、各地域で1組ずつぐらいの移住がなければいけないでしたっけ、この目標値に達するためには。という話。

だから、それぞれ24の地域に毎年1人ずつぐらいは移住者がいなければ、先ほどの計算は成り立たないということでもあります。

ということであったときに、じゃあやはり農林業だけでいいのかと。ほかの産業にも何等かのテコ入れをして、人を入れていかなきゃいけないのではないかというふうにも思うんですが、いかがですか。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

確かに今の産業構造の中で、第3次産業が非常に多いというのはデータ的に出ると。基本的にはやはり第1次産業だろうと。その中で、10年後どういう形になるかという部分ですと、非常に難しいということではありますが、企業を持ってくるとかそういう話ではなくて、やはり生活の基盤をつくっていくのは農林業ではなかろうかという部分でしっかりとしたものを持ってくると。

全部が全部、「そうよね」という部分でいろいろな職業が千差万別なんですけど、やはりそこに重きを置いて、こっちに住んで日向に出かけるとかそういう人たちもかなりいるという部分もありますけど、基本的にはやはりそっちのほうを軸足を置いて、その都度、その都度、やはりほかの職業といいますかそういう部分でやっていったほうがいいのではなかろうかと。

できれば、こちらから通っていただくという形の中と、第2種兼業農家等をやっただけで、町が景観的にも良くなるというのが理想なんですけど、そこで渡世ができるような産業という部分であるものというか、今うちにある資源と云ったら、そういう農地とか山とかそういうものなので、やはりそちらのほうに目を入れてやっていったほうが町としてはいいんじゃないかなろうかというふうに思います。

全部が全部来なくても、今さっき言った宮崎県が100万人とすれば、その5%の人たちがこちらに目を向けてくれて、そのうちのまた5%くらいの人たちが考えていただければ、町は非常に活性化するというか、そういう部分である程度、まんべんなくではなくて、ある程度、ポイントを絞っていったほうがいいのではなかろうかということだと思っております。

【5番 黒田 仁志】

議長。

【議長 那須 富重】

5番、黒田 仁志議員。

【5番 黒田 仁志】

だから、基本とするのは第1次産業、そこは私も揺るぎないところなんですけど。

今の話でも落ちてるところで、うちの中で一番弱いのが、やはり第2次産業なんですよね。誘致しろという話ではないんですよ。

先日の話の中で出てた、空き家がなかなかないじゃないかという話。要は、来た人は「借りたい」、家を持つてる人は「売りたい」の今のミスマッチが一番大きくて進んでいけないというところがあるという話だったんですが、いずれにしろ今の形のままで駄目、リフォームということをしないと貸すにしろ売るにしろできなくなってきている家。

じゃあ、実際、うちの町の大工さんたちの今の戦力はどうよと言ったときに、ほとんどのところがもう兵隊いなくて、兵隊さん、高齢化してて、「兵隊さん」と言ったらいけないですね。従業員の方々は高齢化してて、事業主たちがそれぞれ頑張っているようなところもあります。いわゆる2次産業の1つのいわゆる建築業なんですけれども、そういったところの、で、この人たちはいわゆる技術者なので、一度、定着してしまったらなかなか動きづらい人たちでもあります。こういった人たちの養成というものも、やはり一つ、例えば、ターゲットにしていくものではないかというふうにも思うんですが、いかがですか。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。



【町長 田中 秀俊】

うちに匠の会というものがありまして、その人たちがいろいろな形で職人ですので、造り上げていかないかんとという話の中で、やはりそういうことは今後、必要になってくるのかなあと。

ただ、町自体がそういうことに取り組む意義も大きいんですけど、日本全体で考えたときに、やはりそこ辺がどんどんどんどん減ってくるということで、非常に人口が減るといふか生産年齢人口が減ってくると、いろいろな職業に分配ができなくなって固まる可能性が出てくるんじゃないかという気がします。

ですので、そうなると、今度はその大工さんとか水道屋さんとかそういう部分が減ってくると、物が出来んちゃんないかという話になったときにどうなるのかという部分を先取りして、町で考えていくのかどうかということにもつながるかなあと。

そうは言ったものの、国もいろいろなことをやっているんですけど、町としてはそういう匠の会とかいろいろな形で意見を頂いてるんですけど、それがまだ形になってないということがありますので、もう一回そういうことも考えていきたいなあというふうに思っております。

ですけど、なかなかできないと。結局、職人ですので、やはり今、切込みする大工さんがいるのかという話。プレカットで組み立てていくという形ですので、どうかなあと。リフォームという話になってくると、本当に難しいかなあとという部分と、住宅を建てるよりかはもうリフォームのほうが難しいという気がしますので、町としては、やはりそういうリフォームはやっていきたいと。

そして、空き家を購入して、住宅として使っていったほうが一番早いという気がしています。

【5番 黒田 仁志】

議長。

【議長 那須 富重】

5番、黒田 仁志議員。

【5番 黒田 仁志】

おっしゃるとおり、今、最後のほうでおっしゃったように、なぜ職人の養成がというのは。本当に、いわゆるリフォームしなきゃいけない家というのが切り込みされている家、これを立て直すためには、そういうプレカットだけを分かっている人間を連れて来たってできない。ほぞが切れて建てられるような大工さん、本当の大工さんが必要だということがあるんですね。

今、宮崎県のほうでも西都市のほうに、そういった職人さんを養成する専門学校を用意して人員の育成を図っております。

その人たちの今の就職先はどうも西都、宮崎、そういったところでほとんどが勤められているようであるということを考えて、やはりもう少しこっちから引っ張っていくための、要はお金の出動ですよ。「帰ってこい」の出動があってもいいんじゃないかということを見るところなんです。

今、農林業はそういった担い手育成のお金がありますよね。例えば、林業で言うと、ちょっと林業のほうしかはつきり分からないのであれですけど。緑の雇用制度というのがあって、これは雇用している事業体に、その人の給与に対して9万円支

給されます。3年間ですね。1人当たり3年間、9万円が支給されます。要は、物にならない人も雇いなさいよということなんですよ。

だから、そういうお金があるから雇いやすい。社会保障なんかもしなさいと。社会保険なんかにも加入しなさい。そういった分でも1万プラスで補助があります。要は10万円ほど、3年間に限って6月から1月までですけど半年間補助があります。となると、やはり雇いやすくなるんですね。一人前じゃない人間に金を払うというのが、私たち林業もそうなんです。やはり職人の世界なので、職人の世界で一人前じゃない人間に金を払うというのは、物すごい悩むところなんですけど、そういった補助金があれば少しでも払いやすい。

町の基金なんかでそういったところでサポートしていくということにはできないかということについて、いかがですか。

**【町長 田中 秀俊】**

議長。

**【議長 那須 富重】**

町長。

**【町長 田中 秀俊】**

非常に難しい問題になりますけど、やはりそういうことで人を育てていくという部分ではいいことなんだろうなあと考えております。

ただ、国がどういう政策の中で人を育てていくかということが一番大切かなという気がします。

ですので、緑の雇用とか新規就農者とかいろいろな形で、今まで当たり前だったところに、やはりしっかりとした政策を入れ、計画を入れてやっていこうとしてると。食料・農業・農村計画でもそうだろうと思っております。どんどんどんどん前を見ると、先を見ると、非常に寂しい部分が出てくる。このままで行くと、日本国はということで考えていくと、そうなるのかもしれませんが、職業訓練校を1つの匠の会を母体として、そういうことを構築できないかと。これを1人でやると、非常に厳しい部分が出てくる。疲れるという部分も出てくるのではなかろうかという気がしますので、みんながある程度の組織をつくって、で、見ていくという形でやれば、それに対してこちらが出すお金とそこの匠の会が出すお金で運営していくと。そういう人たちを育てていくということなら、非常に効率的にはなるのではなかろうかというふうには思います。

**【議長 那須 富重】**

それでは、ここで、休憩に入りたいと思います。

10分間の休憩としますので、2時17分の再開とします。

(休憩：午後02時06分)

(再開：午後02時15分)

**【議長 那須 富重】**

それでは、全員おそろいの方ですので、会議を再開したいと思います。

【5番 黒田 仁志】

議長。

【議長 那須 富重】

5番、黒田 仁志議員。

【5番 黒田 仁志】

ちょっと話を一旦変えますが、今、第2期のまち・ひと・しごと創生総合戦略を進めておられます。

先日、まちづくり懇話会の中での報告があったんですが、改めまして、現在の進捗状況、どのような状況で進んでいるかという点をお知らせください。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

第2期の美郷町まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況ということですが、令和2年度は全41事業のうち26件の事業が実施されておるといふことでもあります。実施したということですよ。

評価をAからFまで決めていてAが一番いいということですが、Aが「着実に実践され、大きな効果が期待される」Bの「おおむね実践され、効果が期待される」と評価した事業数は19件で、全体の73%にのぼっているということ、あとがCとDということ、7件、27%が「ちょっとうまくいってない」という状況でございます。今度は、これをしっかりとやっていくということですよ。

今後も、PDCAのサイクルの下で、KPIが決められておりますので、その数字を達成するように、そしてそれ以上になるように頑張っていかなければならないということですよ。

もう本当にこの総合戦略は、私の考えというか位置づけなんですけど、アクションプランだと思っております。

総合戦略がアクションプラン、そして、長期総合計画10年見たときに、これは基本的な計画ということ、町長が誰であってもそういう形でやっていきますよという将来のビジョンということでもいいのかなと。

ただ、5年を見たときにどうするかという部分をしっかりとやっていけば、ある程度、その先につながるという考え方をもちますので、この総合戦略をいかにやり切るかと。それも懇話会の若い人たちの意見を聞きながら、「じゃあそれじゃ駄目だ」と言えば、やはり方向転換をせにゃいかんということだろうと思っておりますので、やはりその時、その時の懇話会の中でしっかりした意見を聞いてやっていくことが美郷町の将来につながると、そういうふうに思っておりますので、蔑ろにするような計画ではないというふうに、私は位置づけておるところです。

以上です。

【5番 黒田 仁志】

議長。

【議長 那須 富重】

5番、黒田 仁志議員。

【5番 黒田 仁志】

私は見ていたんですけれども。

私は、今回の総合戦略の中で大きいのが2つあると思って、1つが子育て支援センターの開設、こちらはまだ今年度は今の段階ではまだできていないわけですが、もう一つ大きなのが、やはり地域づくりのところで、地区別の戦略を策定し実施していきましようということであろうと。それぞれの地区が我が事と思って、それぞれの地区の振興を図っていくと。非常にすばらしい計画だというふうに思っているところなんです。

この、「地区別の計画、今24区ある」という先ほどのお話の中で、今、地区別の戦略はどのような状況かというのもお知らせください。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

ずっとやってきて、それぞれ用意ドンでやってるわけではありませんのでばらつきがあるということでもあります。そこまでちょっと私のほうで把握してませんので、担当課長のほうから説明させていただきます。

【企画情報課長 田常 浩二】

議長。

【議長 那須 富重】

企画情報課長。

【企画情報課長 田常 浩二】

私のほうでお答えさせていただきたいと思います。

この地区別戦略の策定は、昨年度から取り組んでおりまして、昨年度、取組を始めた地域が6地区、今年、取組を始めた地域が9地区でございます。

1年め、昨年、取り組んだ6地区につきましては、昨年度、それぞれの地域の強みですとか弱みを洗い出した上で、それぞれの各地区の人口の今度の減少、先ほどは美郷町としての推移を申し上げましたけれども、各地区、あなたの地区は10年後、20年後にはこういう人口になってますよと。そのためには何組の移住者を呼び込めばこれだけの人口が維持できますよといったものを、各地区に落とし込んでスタートさせております。

それを踏まえた上で、その1年めの6地区は、今年は、それでは人口減少のため

に私たちの地区ではどういったことができるかといったことの今、検討に入っている部分でございます。

今後、これを積み上げていきまして、来年度2月までには各地区の総合戦略として策定し、そして、来年度、令和4年度から、その実行に向けて各地域で取り組んでいただくというような内容になっております。

今年の2年目の9地区につきましては、昨年度、1年目の分ですね。各地区の人口推移とかそういった部分に、今年取り組んでいる分でございます。なかなかコロナの関係でスケジュールがうまく組めなくて、ちょっとうまく進んでいない部分がございますけれども、今後、日程を調整しながら、ぜひ、今年度中には計画の部分が終了できるように取り組んでまいりたいと思っております。

以上です。

**【5番 黒田 仁志】**

議長。

**【議長 那須 富重】**

5番、黒田 仁志議員。

**【5番 黒田 仁志】**

ばらつきはやむを得ないところでもあるというふうに思いますが。

残り9地区ということになるんですか。それが令和4年度から新しくまたスタートするというところでよろしいんですか。

**【企画情報課長 田常 浩二】**

議長。

**【議長 那須 富重】**

企画情報課長。

**【企画情報課長 田常 浩二】**

失礼いたしました。ちょっと説明不足でございました。

2年目の9地区につきましては、今年中に各地区で取り組んでいただく事項、総合戦略の策定まで一気に1年で進んでいくと。去年の6地区と合わせて15地区になりますので、その15地区が令和4年から、その取組にスタートさせていただくというような内容となっております。

そして、最後、全部で24地区ございますので、来年は9地区がそれぞれの策定に取り組んでいただいて、令和5年からその9地区については取組をスタートさせていただき、令和5年には全24地区がそれぞれの取組に取り組んでいただくというような内容となっております。

**【5番 黒田 仁志】**

議長。

**【議長 那須 富重】**

5番、黒田 仁志議員。

【5番 黒田 仁志】

じゃあ、今年スタートしたところ。あれですね、去年もいきなり4月からじゃなかったというところも踏まえて、時間がかかるという理解でよろしいのかなという点を。

【企画情報課長 田常 浩二】

議長。

【議長 那須 富重】

企画情報課長。

【企画情報課長 田常 浩二】

「4月からの取組でなかった」といいますのは。

【5番 黒田 仁志】

だから、年度途中からということで遅くなっているのか。

【企画情報課長 田常 浩二】

昨年度は途中からの取組でしたのでちょっと間が空いてしまったということになったんですけども、今年は1年で一気に戦略の策定まで、地区別戦略の策定までと、大変タイトな日程なんですけれども、住民の方に間が空かないほうが熱量が冷めないといいますか、一気に策定まで行ったほうが策定もしやすいといったような面も見られるかというふうに思います。

【5番 黒田 仁志】

議長。

【議長 那須 富重】

5番、黒田 仁志議員。

【5番 黒田 仁志】

ということになってきますと、取りあえず今の6地区、ある程度、分析ができた、で、自分たちの分析が出来始めているところの6地区。

どうですか、分析の内容とか、ある程度、把握されてるかと思うんですが、思っているとおりというか、それぞれの地区の強み、弱みというものをやはりどのような分析をして、「甘いな」と思うのか、それとも「いいところ見てるな」と思うのか、そういったところは何かありますか。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

そういうところに行って聞いてみますと、やはり私たちではない視線で地域を見てるといことで、やはり地域のことだからよく分かるということが、一番かなと。

大体、やはり同じ地域といいますか美郷町を見てみると、大体、似てるという部分で、ある程度はこういうことは大体、根本的に同じようなことが出てくると。

ただ、その地域、地域の特性はあると。強みと弱みだろうと思いますけど、現にもうそこをやってる部分も地域もあるといことで、ちょっと特異性、早く言えば、渡川が特異性を持つてるといのはそういうことを知らず知らずとやってきたとい部分がある形になってると。

ですので、その24地区がそれぞれの計画の中でといか、みんなで話し合っつくっていったときに、面白い展開が出てくると。

ですので、どうでしょうか。6割くらい同じようなことになる。買物弱者が出てきたり、いろいろな形が出てきて、公共交通が出てきたりいろいろな形は出てくる、そういう部分は地理的要件とかいろいろなものが出て、同じようなことが出てきますが、「こうしたらいっちゃんないか、ああしたらいっちゃんないか」とい部分で出てきてますので、すごく楽しみな出来上がりになると。

今度は、それをいかに実行していくかといことになると、今度はお金もかかるかなと。また、そういう部分になったら、議会にお願いする部分も出てくることいことかなといふふうには思っております。

以上です。

【5番 黒田 仁志】

議長。

【議長 那須 富重】

5番、黒田 仁志議員。

【5番 黒田 仁志】

じゃあ、比較的どこも前向き。あまり後ろ向きな考え方ではなく、前向きな発想で進んでいるという理解でいいですか。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

そういうふうにつけております。

ですので、やはり人口が少ない地域、地区もありますので、そこにはやはりある程度、こちらのほうから力を入れてとい部分も出てこようかと思いますが、今のところ見てる中では、ああじゃないこうじゃないとい話でやってますので、なんでやとい話は聞いたことありませんので、おおむね順調にやってるといふうには私は見ております。

【5番 黒田 仁志】

議長。

【議長 那須 富重】

5番、黒田 仁志議員。

【5番 黒田 仁志】

非常にいいことだと思います。それぞれの地域の方々が地域の問題というものをしっかり理解する。そこから始まらなきゃいけないことが。何か今、今度のコロナの話にしても何にしろ、国がやれよみたいな話で全部、終わっていったのが今の日本の弱いところかなというふうに思います。やはり自分のところの足下を固めていくということが進んでいけば、やはりプラスのほうに物事は展開していくのかなというふうにも思いますので、ぜひ頑張っていたきたいというふうに思います。

ただ、先ほど言ったようにもう一つ柱だと思うのが、子育て支援センターの開設というものがあろうかというふうに思いますが。こちらのほうの進捗はどのようになっていますでしょうか。

【副町長 藤本 茂】

議長。

【議長 那須 富重】

副町長。

【副町長 藤本 茂】

今の計画では、子育て支援センター、これの必要性については十分、認識をしているところなんですけれども、新しい人たちが入ってきたときにそういうママ友と言うんですかね、そういう自分の子育ての悩みとかを話す人がいない。また、支援もどういふものがあるかも分からない。そういったときの拠点として支援センターが必要だということで位置づけられているとおります。

それで、10月中に支援センターを取りあえずはニューホープセンターのどこか一角にセンターを設立しようということにしております。

内容については、畳があって、そしてちょっとした、これはもう少し煮詰めますけど、おもちゃがあって、そしてちょっとした料理ができたりして、そして保健師が週に何日か入ると。開設についても、連続してずっと人員配置ということではなくて、当面は週に何回かとかそういうことを設定して、あるいは講師を招致して話を聞かせるとかそういったところで取組を進めていこうとしております。

【5番 黒田 仁志】

議長。

【議長 那須 富重】

5番、黒田 仁志議員。

【5番 黒田 仁志】

1つ、この子育て支援センター、今現在、住んでおられる方もですけど、本当に



おっしゃったように来た人たち、新しく入られた人たちにも非常に重要だと思います。となると、センターという名前自体は1か所に置いていんですけども、やはりいろいろなところで開催していてもいいのかなというふうにも思うところです。いまから構想していく中で、いろいろなところで開催していくということもぜひお考えいただきたいというふうにも思うんですが、いかがですか。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

取りあえずという部分でセンターでやってみて、そして、南郷、北郷そういう部分を作って、やはり同じような形でやっていったほうが、一番最終的にはいいんじゃないかなということでは話しております。

その中の中身をどうするかと。やはり子育てをする人たちが安心して自分の悩みとかそういう部分でどんどんどん利活用できるようにすればいいかなと。そういうことで移住者が増えるとか。移住した人たちはじいちゃんばあちゃんもおらんし、だから非常に困るという部分はいっぱい聞きますので、やはりそこ辺の中で誰かが見るとか、そういうことがあると非常に助かるということは、もう絶対、明白なことです。そういう形の中で、やはり参加者にそういう部分ができればということには思っております。

【5番 黒田 仁志】

議長。

【議長 那須 富重】

5番、黒田 仁志議員。

【5番 黒田 仁志】

ぜひお考えいただきたいというふうに思います。

それから、これはやはり子育て支援センターと連動していくのかなと思うんですけども、いわゆる移住者センターですよね。移住者の要は疑問点が1か所で話が終結していくようなセンターというものも必要ななかというふうにも思うわけですが、これは別に移住者に限る必要もなくUターン者も同じような、おれの代はこうだったけど私たちの代は違うときもあったりするわけじゃないですか。そういったことを踏まえながら、そういう移住者なんかの相談センターみたいなものというの必要ではないかというふうにも思うんですが、そういったところはいかがですか。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

ですので、いろいろな形でつながりが出てきてくるという部分で、そういう話の中でどこがどこをそういうことでやっていくかという部分もひっくるめてやったほうが、これは能率的にいいかなと思ってますので、そこ辺まで。

例えば、ここに行って、または電話をすればある程度、解決できるというようなそういうものになっていくような形に仕上げればいいかなとは思っています。

【5番 黒田 仁志】

議長。

【議長 那須 富重】

5番、黒田 仁志議員。

【5番 黒田 仁志】

先ほどから言ってるように、この人口を伸ばしていくためには、美郷町に人が帰ってくるなり入ってくるなり、とにかく外から入ってこないことには人は増えないわけでありますので、そういったところの人がやはり美郷に住みたいと思われ続けるようなシステムというものを構築していただければというふうに思うところです。

先日の会議の中で出た、空き家が本当に足りないんじゃないか、もっとそこに人を割いて空き家の情報を集める、またそれを発信する、つないでいく、そういったことが必要ではないかという点も出ておりました。いかがですか。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

確かに、空き家という問題で住宅が足りない、住むところがないという話の中で、やはり空き家をどうしても頼らざるを得ないという話であります。

その地区別戦略の中で皆さんが話すのは、やはり自分たちが知ってる空き家、誰さんが持ってたと。ですので、やはり知ってる人たちが「ここを貸さんか」と、幾らうちの担当がいろいろ会ってもなかなか難しいという部分で、やはり自分たちの手でその空き家をどうかしようかという話をしてもらおうほうが一番手っ取り早いということで、やはりそういう動きになれば非常に空き家問題もスムーズに解決できると。

そして、住宅にできる空き家はリフォームすると。やはり壊れて危ないというようなものは撤去するとか、そういう部分でその地域の人たちがそういう主体性を持って空き家対策というか空き家問題に取り組んでほしいという部分はあります。それを町はしっかりとバックアップするということではどうかというふうには思うところです。

【5番 黒田 仁志】

議長。

【議長 那須 富重】

5番、黒田 仁志議員。

【5番 黒田 仁志】

確かにある、あるはある。地域は把握はしているでしょう。

ただ、これも先日の会議の中で、これは執行部側がお話しいただいたことだと思いますが、持ち主としては売りたいという希望が多い、使うほうとしてはできたら買うんじゃないかとまずは賃貸から入りたい。そういう意向のすり合わせがなかなかうまくいってないようなところも話を聞きました。この辺りの解決策、どう思いますか。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

私が思うのは、やはり地域の方々にそういう人たちが、班ができれば、情報は全部、出すという話でいいんだろーと思いますけど、結局、そのままにしても住宅ですのでぼろぼろになっていくと。ですので、「ちょっと貸さんか」とか、そういう話をさせていただくとまだ楽かなあと思っておりますので、何かそういうその地域の力というか、そういうものをやはり少し借りたいなという部分が大きいと。ただこちらが行って、ここをこうしてああしてという話になると、なかなか進まんとということで、その地域の人がそこの持ち主の所有者の人を知っていると。大体、分かってるといって話になると話が進みやすいかなという部分で、やはりそういう部分の地域力も使いたいなということでもあります。

【5番 黒田 仁志】

議長。

【議長 那須 富重】

5番、黒田 仁志議員。

【5番 黒田 仁志】

分かるんですけども、でも、今は実際に空き家を持っておられる方はもう本当に買ってこれということなんだと思うんですよ。

逆にこっちに移ってしまえばどうにでもできるというところは多々あるような気がするんです。そういったところ、ただ、一人一人買い取れっていうわけにもいかんですし、何かそういったところの策はないものかということなんですけど。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

先ほどから言うように、住宅を造るよりか良かろうという部分がいっぱいあります。

ただ、その物件としてこれをリフォームしてもリフォーム代が高いというだけだったら、やはりちょっと問題だろうと。

だから、「ここ、買ってもいいか」という話をしたときに、その地域の人が間に入っていて「いいげな」という話になれば、町が購入して、それを住宅としてリフォームして、それを貸すと。そういう形が一番理想かなと。

リフォームして、ここが要するという話になれば、もうそれは売ると。そういう解釈の中でやっていくと、空き家対策がある程度、進んでいくんじゃないかなと。その前提として、やはり地域力は借りたいということでは思っています。

【5番 黒田 仁志】

議長。

【議長 那須 富重】

5番、黒田 仁志議員。

【5番 黒田 仁志】

ふるさと納税の基金なんかをそういったところに充てていくのはやはり一つ地域の活性化のためにいいんじゃないかと思っておりますので、ぜひそういったところの検討もしていただければというふうに思います。

また、空き店舗のほうの情報収集も商工会の青年部のほうがするというお話がありました。これもやはり同じような条件が出てくるかと思っております。その辺りいかがですか。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

非常に思う部分は、空き店舗の場合、店舗と住居が非常に一体化してるという部分が私の頭にはあります。

ですので、そう簡単には、これを全部、売りますよとか貸しますよという話で自分はどこかに住みますよという話なら、これは非常にやりやすい。

ただ、「自分たちは住んでるけど、ここの下のというか横の店舗は借りてくださいね」だったら、その話は進まない、非常に厳しい部分がある。今そういう認識でいますので、これをどうするかというのは、また皆さんとちょっと知恵を出し合わ

ないと、いい方向には行かんちゃないう気がしてます。今のところは、それくらいしかありません。

【5番 黒田 仁志】

議長。

【議長 那須 富重】

5番、黒田 仁志議員。

【5番 黒田 仁志】

おっしゃるとおりで、ほとんどが住居兼店舗ということになってくるので、現住しながら、店舗部分は空いてるよというのは、やはり取扱いが難しいなというのも、私もそこが問題だろうというふうには思っているところなんです。

ただ、やはり新しい商売の感覚、今ここではこういうことができるんじゃないのと思ってる人たちがまた移住してくるという可能性もありますので、これは商工会の青年部が今から調査するという事だったので、ある程度のデータがそろい始める頃にまたいろいろな戦略を立てていってほしいなど。

やはり人が住む、先ほどの産業の話じゃないんですけれども、1つの要は1次産業だけがあってもこの町が発展するわけではない。やはり2次産業、3次産業いろいろな産業があって町というのは成り立っていくわけですから、そういった意味をしっかりと踏まえながら、またその辺りにも取り組んでいただきたいというふうに思います。いかがですか。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

今さっき、どうしても住宅と店舗が一緒になってるという話をするとき、私の古い考え方、そういう頭しかないということです。ですので、今の時代に合ったときにこういう使い方があるよという部分は必ず出てくるのかなという気がします。

ですので、皆さんの知恵を借りたいというのはそういうことで、あまり先入観から入っていくといかんかなと。

それと、全て1次、2次、3次ということで6次産業化という部分は、やはりしっかりとした中で、先ほどは「基盤はここですよ」と。「基盤はここですよ」と言ったのは、やはり1次産業がなければ、2次も3次も。足して6、掛けて6ですけど、掛けたときに、1がゼロだったときにすごくできないという部分で、軸足はやはり1次産業において、6次産業化を目指していきたいという意味であります。ですので、そういう意味で今後、やっていきたいと、そう思っております。

【5番 黒田 仁志】

議長。

【議長 那須 富重】

5番、黒田 仁志議員。

【5番 黒田 仁志】

おっしゃるとおりです。私は別に1次産業を放ったらかしとっていいよという話ではないんです。うちみたいなクラスのところってというのがやってるのが、農地が空いてるからと太陽光発電をばんばん誘致してるんですよね。お金はできてるけど、農地じゃなくなっていく。私は、この景色だけはどうしてもきれいだと思わないんです。一度、このことは町長にもお伺いしたことがあるかと思います。

いかがですか、農地をどんどんどんどん太陽光発電にしていく様というのはいかようにお考えかというのをお聞きしていいですか。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

そもそも農地は何かという部分でありますけど、やはり高度成長期のときに太平洋ベルト地帯に一番いいところの田畑辺が工業地帯に変わっていったと。その結果がこうであるということを考えてみれば、ある程度の電力供給という部分はあったとしても、やはり中山間地域の日本の原風景というか、やはり守るべきものは守っていくと。

太陽光がどうのこうのということではなくて、もう少しエネルギーの部分ではもうちょっと考える部分はあるんじゃないだろうか。それを否定するわけではありませんが、国土のバランスというかそういうものはやはり国策としてしっかりと持ってほしいなという気はしますけど、それに対して駄目ですよという話はできません。

以上です。

【5番 黒田 仁志】

議長。

【議長 那須 富重】

5番、黒田 仁志議員。

【5番 黒田 仁志】

いずれにしろ、しっかり農林業をやり続けることによって、その土地が安易に太陽光発電なんかに変わっていくということはあるとあり得ないというふうに思いますので、ぜひ、しっかりとした1次産業の育成というものも今後やっていただきたいというふうに思います。

次の論点なんですけど、生き残るために、美郷町としては今、何が重要なのか。順番に戦略を進めていく中で、今どのように町長は捉えておられるかという点をお知らせください。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

戦略でまち・ひと・しごと創生総合戦略という話でつくってますけど、町が必要なのかと、人か、仕事かということはずっと思ってたんですけど、何で「まち」が先に来とつとかなあと思うっちゃけど。

私は、「ひと」だと。もうこの一言じゃないかと。「ひと」がおらんけりゃ集落もなくなるという話で考えたときに、やはり「ひと」が一番大切だという気がします。

【5番 黒田 仁志】

議長。

【議長 那須 富重】

5番、黒田 仁志議員。

【5番 黒田 仁志】

おっしゃるとおりでありまして、「ひと」をいかに、もう「ひと」を一人一人をやはり大切にできるというまちになってくるんだらうというふうに思うんですね。

そういうふうな視点で、この各課の実践というものを見直していったときに、連携しなければいけないものがいろいろとありますよね。果たして連携はうまく行ってるのかなあと思うようなことが多々あるんですね。

例えば、「子育て」といって今、町民生活課がメインで振ってあるんですけど、実際に言うと子育てというところは教育委員会も一緒になるべきですし、健康福祉課なんかも一緒になるべきですし、そういったところの横の連携というのが何かうまくとれてるのかというのが、やはり町民の一番の心配事なんではないかというふうに思います。いかがですか。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

いろいろな問題の中で、やはりそういう形は出てきてるのかなという気がしてます。

ですので、自分たちはこことか、政策の中で教育委員会と福祉施設と文科省と厚生労働省という縦割りの中で動いてきたという部分がありますので、どうしてもそういう形になってる部分もあると。

ただ、町民から見れば、どこからどんげという話はないと。ただ、これはどんげなとつとつとかという話だけでありますので、やはりそこ辺は経営会議、管理者の中

で意思疎通を図りながら、こっちは一緒にやれとか、そういうことが今から先は出てくるのかなという気がしています。

ですので、子育て支援センターをつくるときにおいて、これは一緒よねと。ある程度、行政的な事務としては別かもしれないけど、そこ辺で動く部分はやはりそういうところにある程度の権限を持たせてやったほうが早いかなという気はしています。

【5番 黒田 仁志】

議長。

【議長 那須 富重】

5番、黒田 仁志議員。

【5番 黒田 仁志】

確かに各課それぞれ仕事をきっちり分けていくために、ある程度の事務分掌というのはどうしても必要であろうと。責任を持って動くためには必要なんだろうというふうにも思うんです。

私、この庁舎ができるときに一度、話したことがあるんですけど、もう各課の島って要らないんじゃないかと。よく今、大きいIT系の企業だと、自分の定席って決まってない。会議用のテーブルみたいなものが幾つも適当に置いてあって、それぞれの課ではなく適当に入り交じりながら話しながら仕事を進めていく。いわゆるこれで仕事ができる状況であれば、そういったことも可能なのではないかというお話をしたことがあります。

今はそういった感じでもう、もっとその日、その日で要は関連がある人たちがそこに寄り合いながら話をしながら仕事を進めていくということがあってもいいんじゃないか。新しい仕事の進め方ということで、そういったことがあってもいいんじゃないかとも思うんですけども、いかがですか。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

参考にさせていただきたいと思っております。

いろいろなこのコロナ禍の中で、集団発生、早く言えばクラスターが出たときにどうするかと。結局、うちは庁舎があと2つありますので、そこに分けて分散させて、ちょっと訓練といいますかそういうこともやりましたので、やってみる。これはコロナばっかしではなくて災害が起こったときとかいろいろな形で使えると。

ですので、いろいろな実験をやってみて、そこまで職員が消化というか能力的にあるかどうかという部分も見なければ分かりませんし、そういうことはやっていきたいというか、参考にさせていただきたいと思います。

【5番 黒田 仁志】

議長。



【議長 那須 富重】

5番、黒田 仁志議員。

【5番 黒田 仁志】

これは私が初めて言うことではなく、代々の議員の方々が任期の終りくらいに必ず言うんですけども、「本当に人がおらんって、基金ばっかしあるような町政でもつまらんぞ」ということを最後のほうに必ずおっしゃっていく議員がいらっしやるわけで、私も同じようなことを思って、国破れて山河在りという言葉をちょっともじって夢破れて山河在り、人いなくなり基金ありというような文言を作ってみました。とにかく山と川は残るんですけども、結局、人がいなくなって基金だけ残っていくと。今、75億円ほどの基金がある、全体で。という状況を考えたときに、もう少し積極的なそういう財政出動があってもいいんじゃないかというふうに思いますが、いかがですか。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

おっしゃるとおりだと思います。やはり人という部分を持続していくためには、ある程度の財政出動、生活基盤といいますか。その生活基盤の中には、農林もありますし生きていくためのインフラもあります。やはりそういう部分ではしっかりとそういう基金は何のために積み立てるのかということでもありますので、やはり積み立ててばかりでは何もお金は有効に生きてこないというふうに思っておりますので、議員さんに、また町民に聞いて、こういうことでこういう基金を取崩してやっていいかという話であれば、それが先につながるということで確証を得れば、基金を崩してでもしっかりとやっていきたいと。またやるべきだというふうには私自身も考えます。

【5番 黒田 仁志】

議長。

【議長 那須 富重】

5番、黒田 仁志議員。

【5番 黒田 仁志】

先ほどの話に戻りますけれども、いわゆる大工さん、育成なんかで、産業育成資金という基金がありますけれども、今のところなんかずっと話の中では、1次産業のところに使わなきゃいけないみたいな何となく雰囲気はニュアンスがあったんですけども、大工なんかというのは重要な産業であり、先ほどからあるように空き家をリフォームしたりそういうふうに維持したりいろいろしていくためにも大工さんという職業はこの町にどうしても必要だと思います。

こういった方の育成のためにその基金を使ってもいいんじゃないかというふうにも思います。いかがですか。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

基金の使い方なんですけど、何に入れるかというのはそれぞれの考え方とその時代の時代の要請という部分で、ただ、産業振興だけが基金の使い方ではないということでもあります。

ですので、いろいろな形の中で充実してきましたので、あと何が足りないのかという部分で皆さんと考えていきながら、そこにお金をつぎ込んでいくということが大切かなあというふうに思っております。

基金も結構、大きくなりましたので、合併当時から50億円くらい増えてるのかなあと思っておりますので、もうある程度、そういう部分でしっかりとした町というか、10年後、20年後を見据えた中で、やはり使うべきところは使っていくと。それはいろいろな分野において同じことだと思っておりますので、理解が得られれば、そういう形でいいんじゃないかというふうには思います。

以上です。

【5番 黒田 仁志】

議長。

【議長 那須 富重】

5番、黒田 仁志議員。

【5番 黒田 仁志】

今、あえて言ったのは、産業等振興基金12億6,000万円ほどですね。の分です。何かそれが今までは本当に1次産業ばかりに何となく目が向いてたんですけど、産業振興というならほかの産業でもいいんじゃないかという意味なんですけど、いかがですか。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

産業はもう全てでしようから、そういう意味で1次産業に限らずと。大体、昔から1次産業が主だったから、そちらのほうにという部分での基金創設かなあという気はしますが、産業振興基金ですので、それは何に使ってもいいということで、

それは皆さんにこういう形で使わせてくださいという、時の首長がそういう形で提案していくと思いますので、それはそれでよかろうというふうに思います。

【5番 黒田 仁志】

議長。

【議長 那須 富重】

5番、黒田 仁志議員。

【5番 黒田 仁志】

要は、私も林業をやっていくという中でも、林業をやっている関係者だけで私たちが回っているわけではなくて、やはり機械を修理する人、ガソリン・燃料なんかを売ってくれる人、いろいろな人たちが複合的に絡んで林業という産業を実際、やれているわけであって、そういった方々がやはりいかに近いところにいるかというのが発展するかしらないかということの大きなところになってきておりますので、ぜひ、バランス良い人が育つまちと、そういう意味で私は「まち・ひと・しごと」の「まち」が一番最初に来るんだらうなど。いろいろなものがやはり複合的に生きないと、地域は成り立たない。1つの産業だけでは成り立たないということなんだらうなどというふうに、私なりに解釈して進めていったところでございました。

先ほどから言うように地域の振興から考えていくと、この2回めの第2次の戦略は私は非常に面白いと思っております。今後も地域のほうからもずっとバックアップしていきたいというふうにも考えているところです。

最後に、このような戦略で今、臨んでおられる町長の思いを、町民へのメッセージとしてお伝えいただけますか。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

10年後の美郷町についてということで質問を受けたんですけど、人口減少を静かなる有事と名付けて継承している方がいます。どんどんどんどん、目に見えないというか、目に見えているんですけど、人が減るということはどういうことかと。

これ、軍事力でも何でもありませんけど、どんどん減れば国力が落ちてくるわけですので、静かなる有事だと。これは河合雅司さんという方なんですけど、「未来の年表 人口減少、日本でこれから起きること」ということで書いておりますけど、非常に怖いと。そのまま読んでいくと、もう日本列島どうかなるっちゃんないかというくらいの心配事であります。

やはり「人だ」ということでありますので、先ほども話しましたが、2031年ということであと10年と。この10年をどのように考えるかというだと思えます。まだ10年あると、それとも10年しかないという考え方をするのかということと全然、変わってくるというような気がすると。

それもただ何もしないでおったら非常に長い10年になると。でも、何かを始め

たら、10年というのはあっという間に来るといふ気がします。

ですので、先ほど、総合戦略の中で定住計画とかそういうものをしっかりと組み立てて、それぞれの地域が自分のところは自分で頑張るといふまずそういう目標を立てていただいて、美郷町という部分をつくっていただきたいと。それで、美郷町としていろいろなバックアップをしながら、10年後、20年後、30年後、やはり3,500人から4,000人くらいおるような人口を目指して頑張るといふか努力していくことが大切であると。

ですので、楽しい美郷町にしていくどうか、移住者もいろいろな方が触れ合うといふか、非常に希望が持てるような感じになってますので、そういうまちを早くしっかりとしたものにしていきたいなあとこのように思います。

ですので、企画情報課が書いておりますけど、一人の百歩といふよりか、やはり百人の一步が大切ではないかと。みんなで作るということ、町民の皆さんに御協力いただきたいなあとこのように思っております。

以上です。

【5番 黒田 仁志】

議長。

【議長 那須 富重】

5番、黒田 仁志議員。

【5番 黒田 仁志】

おっしゃるとおりで、「一人の百歩よりも百人の一步」この考え方が、本来、日本の先ほどからおっしゃる様に静かな有事といふ人口減少の歯止めになるべく進める話であろうと思っておりますが、あまりにも1億何千万人が8,000万人になるというくらいの話から入るもので漠然としている。

だけど、これはやはりうちの町みたいに小さく、小さく細分化していくと、日本の人口といふものもう少し上で、高止まりで推移する可能性といふのはあるのかなといふふうにも思うところであります。いろいろな意味で模範になるようなところもあろうかと思っております。今後の努力をどうぞよろしくお願い申し上げまして、以上で一般質問を終了します。

【議長 那須 富重】

これで、5番 黒田 仁志議員の質問を終わります。

以上で、本日の日程は全部、終了しました。

本日は、これにて散会します。

【事務局長 小田 広美】

「一同・起立・礼」・・・お疲れさまでした・・・。

(散会：午後02時57分)